

市内遺跡発掘調査

XII

2019

埼玉県富士見市教育委員会

あ い さ つ

富士見市教育委員会

教育長 山 口 武 士

埼玉県富士見市は、都心から約30km、武蔵野台地の北東縁に位置しており、市域の西部には武蔵野台地、東部には荒川低地が広がっています。台地から低地に向かって流れる河川と台地際から湧き出す湧き水により、複雑な地形が造り出される一方で、緑豊かな自然環境が広がっています。この恵まれた自然環境の中、武蔵野台地の縁辺部を中心に、先史時代から続く人々の暮らした痕跡がよく残されており、市内では旧石器時代から近世に至るまでの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が59か所確認されています。この中には、縄文時代前期の環状集落「国指定史跡 水子貝塚」や、縄文時代早期末から前期にかけての遺構・遺物が顕著な「打越遺跡」、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての大規模環濠集落「南通遺跡」、中世武士の館「県指定旧跡 難波田氏館跡」など著名な遺跡が存在します。

富士見市教育委員会では、これらの埋蔵文化財包蔵地の保存や、発掘調査で発見された郷土の貴重な歴史資料の活用を図るため、「国指定史跡 水子貝塚」、「県指定旧跡 難波田氏館跡」はそれぞれ「水子貝塚公園・水子貝塚資料館」、「難波田城公園・難波田城資料館」として整備を行い、歴史公園としてまた学習の場として、市民のみならず多くの方々にご活用いただいております。

その一方で、まだ市内に残されている埋蔵文化財を保護すべく、市内遺跡発掘調査事業として、埋蔵文化財包蔵地内での宅地造成・住宅建設等の開発に先立ち、事前に試掘調査・発掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存等の措置を行ってまいりました。市内の埋蔵文化財包蔵地は、そのほとんどが市街化区域である台地上に分布しており、開発行為の受けやすい状況下にあります。平成30年度の市内遺跡発掘調査事業では、試掘調査及び発掘調査等が39件を数え、郷土の歴史を知る上で貴重な遺構・遺物が検出され、成果をおさめることができました。

ここに本年度の事業成果の一部を報告書として刊行するにあたり、ご指導ご協力を賜りました文化庁、埼玉県教育局文化資源課並びに地元関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が埋蔵文化財に対する理解と知識を深めると共に、富士見市の歴史を学ぶ上で参考になれば、幸いに存じます。

例 言

1. 本書は、平成30年度に実施した埼玉県富士見市内に所在する遺跡群の発掘調査報告書である。

発掘調査は富士見市教育委員会が主体となり、平成30年4月1日より平成31年3月31日まで実施した。調査にかかる経費の一部については、国庫及び県費補助金の交付を受けている。

2. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体者 富士見市教育委員会
教育長 山口武士
教育部長 林みどり
生涯学習課長 島海謙一
生涯学習副課長 中田正義
文化財保護担当 堀 善之・佐藤一也
調査担当者 堀 善之・佐藤一也

3. 本書の編集は富士見市教育委員会が行い、堀・佐藤が担当した。

第1章 佐藤
第2章 堀
第3章 佐藤

4. 本書の遺構及び遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 図版の縮尺は主に次のとおりである。

遺構配置図	1/300
溝跡	1/120
住居跡・掘立柱建物跡	1/60
土坑・柱穴列	1/60
炉穴・カマド・貯蔵穴	1/30
土器実測図	1/4
土器拓影図・石器実測図	1/3

- (2) 遺構実測図の水糸高は海拔高を示す。

- (3) 柱穴内の数字は床面からの深度を示す。(単位cm)

- (4) 住居跡名・掘立柱建物跡名・炉穴名・土坑名・柱穴列名・溝跡名は、時代ごとに遺跡内の通し番号になっている。

- (5) 遺構名の略記号は以下の内容を示す。

F P = 炉穴、H = 平安時代の住居跡、H D = 土坑、J D = 縄文時代の土坑、M = 溝跡、Y = 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭

5. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して富士見市文化財整理室に保管してある。

6. 発掘調査及び整理を通じて下記の諸機関・諸氏に御指導・御協力を賜った。(敬称略)

荒井幹夫・越前谷理・大久保淳・岡崎裕子
尾形剛敏・岡野賢人・加藤秀之・隈本健介
小出輝雄・鈴木一郎・高崎直成・坪田幹男
照林敏郎・鍋島直久・根本 靖・野沢 均
早坂廣人・松本富雄・柳井章宏・柳沢健司
和田晋治

文化庁・埼玉県教育局文化資源課
富士見市立水子貝塚資料館
富士見市立難波田城資料館

7. 調査参加者

(調査員)

櫻井英史

(調査協力員)

飯田久子・岩瀬直美・上田 寛・臼井 孝
大川早苗・小口 広・小田陽子・神谷道子
向後洋史・佐藤由美子・末国敏郎・鈴木美恵子
高地真幸・田中香代子・中川和弘・名久井よし江
長谷川雅之・林 秀樹・深谷和江・松下祥子
三觜 勉・森戸和子・盛政清美・山口好文
吉田信江

(整理協力員)

和泉千珠子・小川千鶴子・今野孝之・白石尚美
萩元智子・細見美枝・結城路子

目 次

あいさつ 例 言 目 次 図表目次 写真図版目次

第1章 平成30年度の調査成果の概要	1
第1節 遺跡の立地と環境	1
第2節 発掘調査に至る経緯	3
第2章 大谷遺跡第5・6地点	5
第1節 遺跡の概要	5
第2節 第5地点の調査	5
第3節 第6地点の調査	10
第3章 東台遺跡第44地点	16
第1節 遺跡の概要	16
第2節 縄文時代の遺構と遺物	18
第3節 平安時代の遺構と遺物	21
第4節 その他の遺構と遺物	42

写真図版 報告書抄録

図 表 目 次

第1図 富士見市内遺跡分布図	2	第18図 第76号住居跡 (76 H)	22
第2図 大谷遺跡第5・6地点	5	第19図 第76号住居跡出土遺物 (76 H)	23
第3図 大谷遺跡第5地点遺構配置図	6	第20図 第77号住居跡1 (77 H)	24
第4図 第1～10号竪穴 (1～10 F P)	8	第21図 第77号住居跡2 (77 H)	25
第5図 第2～12号土坑 (2～12 J D)	9	第22図 第77号住居跡出土遺物 (77 H)	26
第6図 大谷遺跡第5地点出土遺物	10	第23図 第78号住居跡1 (78 H)	29
第7図 大谷遺跡第6地点遺構配置図	11	第24図 第78号住居跡2 (78 H)	30
第8図 第2号住居跡1 (2 Y)	12	第25図 第78号住居跡出土遺物1 (78 H)	31
第9図 第2号住居跡2 (2 Y)	13	第26図 第78号住居跡出土遺物2 (78 H)	32
第10図 第2号住居跡3 (2 Y)	14	第27図 第79号住居跡出土遺物 (79 H)	33
第11図 第2号住居跡出土遺物 (2 Y)	15	第28図 第79号住居跡1 (79 H)	34
第12図 東台遺跡第44地点	16	第29図 第79号住居跡2 (79 H)	35
第13図 東台遺跡第44地点遺構配置図	17	第30図 第80号住居跡出土遺物 (80 H)	36
第14図 第20～26号土坑 (20～26 J D)	19	第31図 第80号住居跡1 (80 H)	37
第15図 第21号土坑出土遺物 (21 J D)	20	第32図 第80号住居跡2 (80 H)	38
第16図 第22号土坑出土遺物 (22 J D)	20	第33図 第81号住居跡 (81 H)	39
第17図 第23号土坑出土遺物 (23 J D)	21	第34図 第81号住居跡出土遺物 (81 H)	40

第35図	第15号溝跡 (15M) ……………	41
第36図	第15号溝跡出土遺物 (15M) ……………	42
第37図	第4号掘立柱建物跡1 ……………	43
第38図	第4号掘立柱建物跡2 ……………	44

第1表	平成30年度調査地点一覧1 ……………	3
第2表	平成30年度調査地点一覧2 ……………	4
第3表	大谷遺跡第5地点縄文時代土坑一覧表 ……	10
第4表	第21号土坑 (21 J D) 出土土器観察表 ……	21
第5表	第22号土坑 (22 J D) 出土土器観察表 ……	21
第6表	第23号土坑 (23 J D) 出土土器観察表 ……	21
第7表	第23号土坑 (23 J D) 出土土器観察表 ……	21
第8表	第76号住居跡 (76 H) 出土土器観察表 ……	23
第9表	第77号住居跡 (77 H) 出土土器観察表 ……	25
第10表	第78号住居跡 (78 H) 出土土器観察表1 ……	27
第11表	第78号住居跡 (78 H) 出土土器観察表2 ……	28

第39図	第107～110号土坑 (107～110 H D) ……	45
第40図	第1号柱穴列 ……………	46
第41図	遺構外出土遺物1 ……………	47
第42図	遺構外出土遺物2 ……………	48

第12表	第79号住居跡 (79 H) 出土土器観察表 ……	33
第13表	第79号住居跡 (79 H) 出土瓦観察表 ……	33
第14表	第80号住居跡 (80 H) 出土土器観察表 ……	36
第15表	第81号住居跡 (81 H) 出土土器観察表 ……	40
第16表	第81号住居跡 (81 H) 出土鉄製品観察表 ……	41
第17表	第15号溝跡 (15M) 出土土器観察表 ……	42
第18表	遺構外出土土器観察表1 ……………	46
第19表	遺構外出土土器観察表2 ……………	47
第20表	遺構外出土土器観察表 ……………	47
第21表	遺構外出土土器・鍛冶関連遺物観察表 ……	48

写真図版目次

写真図版1

- 〔1〕 調査前風景
- 〔2〕 調査風景
- 〔3〕 第1号炉穴 (1 F P)
- 〔4〕 第2号炉穴 (2 F P)
- 〔5〕 第3号炉穴 (3 F P)
- 〔6〕 第4～7号炉穴 (4～7 F P)
- 〔7〕 第8～10号炉穴 (8～10 F P)
- 〔8〕 出土遺物

写真図版2

- 〔1〕 第2号住居跡遺構プラン (2 Y)
- 〔2〕 調査風景
- 〔3〕 第2号住居跡 (2 Y)
- 〔4〕 第2号住居跡炉1 (2 Y)
- 〔5〕 第2号住居跡炉2 (2 Y)
- 〔6〕 第2号住居跡貯蔵穴 (2 Y)
- 〔7〕 第2号住居跡階段掘り込み (2 Y)
- 〔8〕 第2号住居跡入り口施設 (2 Y)

写真図版3

- 〔1〕 遺物出土状況1 (2 Y)
- 〔2〕 遺物出土状況2 (2 Y)
- 〔3〕 遺物出土状況3 (2 Y)
- 〔4〕 遺物出土状況4 (2 Y)
- 〔5〕 遺物出土状況5 (2 Y)
- 〔6〕 貯蔵穴遺物出土状況 (2 Y)
- 〔7〕 階段掘り込み遺物出土状況1 (2 Y)
- 〔8〕 階段掘り込み遺物出土状況2 (2 Y)

写真図版4

- 〔1〕 出土遺物 (1) (2 Y)
- 〔2〕 出土遺物 (2) (2 Y)
- 〔3〕 出土遺物 (3) (2 Y)
- 〔4〕 出土遺物 (4) (2 Y)
- 〔5〕 出土遺物 (5～7) (2 Y)
- 〔6〕 出土遺物 (8、9) (2 Y)
- 〔7〕 出土遺物 (10、11) (2 Y)
- 〔8〕 出土遺物 (12) (2 Y)

写真図版5

- 〔1〕 東台遺跡第44地点試掘調査前風景
- 〔2〕 遺構確認状況
- 〔3〕 第78号住居跡完掘状況 (78 H)
- 〔4〕 第78号住居跡カマド完掘状況 (78 H)
- 〔5〕 第79号住居跡完掘状況 (79 H)
- 〔6〕 第4号掘立柱建物跡完掘状況
- 〔7〕 調査終了状況1
- 〔8〕 調査終了状況2

写真図版6

- 〔1〕 第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.4)
- 〔2〕 第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.8)
- 〔3〕 第81号住居跡出土遺物 (81 H) (No.3)
- 〔4〕 第76号住居跡出土遺物 (76 H) (No.2)
- 〔5〕 第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.23)
- 〔6〕 第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.24)
- 〔7〕 第79号住居跡出土遺物 (79 H) (No.6)

第1章 平成30年度の調査成果の概要

第1節 遺跡の立地と環境

埼玉県富士見市は、都心から30km圏内の県域南部に位置する。昭和40年代まで武蔵野の面影の残る近郊農村であったが、その後は東武東上線沿線のベッドタウンとして姿を変えてきた。現在の人口は11万人を超えている。

富士見市は、東に荒川を挟んだ対岸にさいたま市、南に柳瀬川を挟んだ対岸に志木市、北にふじみ野市、西に三芳町と接している。市域中央部は新河岸川が南北に貫流し、荒川と新河岸川により形成された沖積地の荒川低地が市域東半部に広がる。市域西半部は標高約20mの武蔵野台地の北東縁にあたり、新河岸川に注ぐ小河川により多くの支谷が形成され、複雑な地形を呈している。

市内で確認される埋蔵文化財包蔵地は59か所を数え、その多くは台地縁辺部に集中し、旧石器時代から近世にわたる遺跡が確認されている。一方荒川低地では、新河岸川沿いに形成された自然堤防上、弥生時代・古墳時代・戦国時代・江戸時代の遺跡が確認されるが、その数は少ない。

市内の遺跡を時代別に概観すると、旧石器時代では、中沢遺跡、外記塚遺跡などの遺跡で礫群が出土している。谷津遺跡ではX層中にナイフ形石器と石刃がデボの状況で確認され、中沢遺跡ではX層中から礫群が出土している。また、栗谷ツ遺跡ではVI層中からナイフ形石器群が出土しており、打越遺跡では細石刃群が僅かに出土している。

縄文時代になると、宮脇遺跡などで草創期の有舌尖頭器等の石器が採取され、八ヶ上遺跡では隆起線文土器や爪形文土器が出土している。早期末から前期にかけては縄文海進の影響により、市域東部の荒川低地に海水が進入して古入間湾が形成され、それに伴い武蔵野台地縁辺部に貝塚を伴う集落が形成されている。栗谷ツ遺跡で早期前葉の夏島式期、稲荷台式期の堅穴住居跡が検出されている。早期後半になると、打越遺跡を中心に多くの遺跡で堅穴住居跡や炉跡が検出されるようになる。前期になると、集落の規模も大きくな

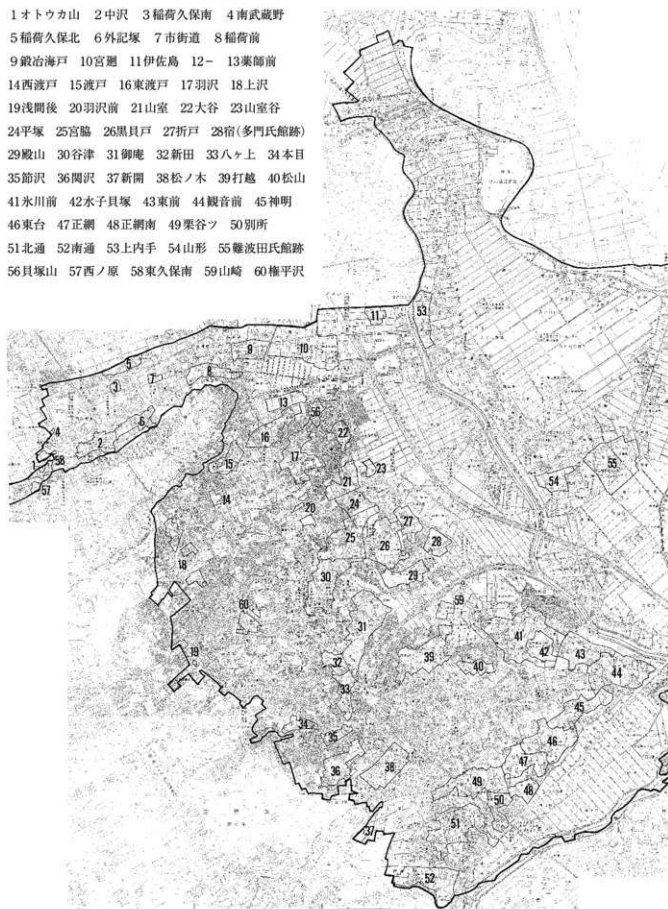
り、貝塚を伴う堅穴住居跡が検出されるようになる。間山式期には打越遺跡を中心に中沢遺跡や殿山遺跡などで、黒沢式期には国指定史跡の水子貝塚を中心に宮脇遺跡、宮脇遺跡などの遺跡で、堅穴住居跡などの遺構が検出されている。また、諸磯式期には宮脇遺跡や水子貝塚などで貝塚を伴わない堅穴住居跡が検出されている。中期の勝坂式期から加曾利E式期、後期初頭の称名寺式期にかけては、中沢遺跡や外記塚遺跡、稲荷前遺跡などの多くの遺跡で堅穴住居跡などの遺構が検出され、特に中沢遺跡や羽沢遺跡、松ノ木遺跡は環状集落の様相を呈していることが明らかとなっている。後期初頭以降は本目遺跡や打越遺跡、正網遺跡で僅かに遺構が検出されるに過ぎず、晩期になると正網遺跡で僅かに遺物が確認されるのみとなっている。

弥生時代から古墳時代初頭にかけては、市域南半部から柳瀬川流域に集落が集中し、中期の宮ノ台式期に南通遺跡で堅穴住居跡が、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけては、観音前遺跡や北通遺跡などで堅穴住居跡が検出されている。また、新河岸川流域の自然堤防上である上内手遺跡や山形遺跡などで堅穴住居跡が確認され、低地でも集落が形成されたことが明らかとなっている。ほかに、南通遺跡では検出された環濠と堅穴住居跡310軒から市内有数の大規模集落であることが確認され、永川前遺跡や東台遺跡などで方形周溝墓が検出されている。北通遺跡では、検出された方形周溝墓の主体部から鉄検やガラス玉が出土し、市指定文化財となっている。

古墳時代では、後期に宮脇遺跡や観音前遺跡などの遺跡で堅穴住居跡が検出されている。古墳はかつて貝塚山遺跡に存在したが、現在は削平されている。

奈良時代では中沢遺跡や黒貝戸遺跡などで、平安時代では宮脇遺跡や東台遺跡などの多くの遺跡で、それぞれ堅穴住居跡が検出されている。また、永川前遺跡や正網遺跡で掘立柱建物跡群、栗谷ツ遺跡で須恵器窯跡、本目遺跡で土器焼成土坑、宮脇遺跡や永川前遺跡、東台遺跡で工房跡が検出されている。特に、宮脇遺跡の鍛造工房跡からは、多量の鉄滓や銅滓とともに、銅製仏具の鍛造に使用された鋳型が出土している。

- 1 オトウカ山 2 中沢 3 稲荷久保南 4 南武蔵野
 5 稲荷久保北 6 外記塚 7 市街道 8 稲荷前
 9 鍛冶海戸 10 宮廻 11 伊佐島 12- 13 薬師前
 14 西渡戸 15 渡戸 16 東渡戸 17 羽沢 18 上沢
 19 浅間後 20 羽沢前 21 山室 22 大谷 23 山室谷
 24 平塚 25 宮脇 26 黒貝戸 27 折戸 28 宿(多門氏館跡)
 29 殿山 30 谷津 31 御庵 32 新田 33 ハヶ上 34 本目
 35 節沢 36 関沢 37 新間 38 松ノ木 39 打越 40 松山
 41 氷川前 42 水子貝塚 43 東前 44 観音前 45 神明
 46 東台 47 正綱 48 正綱南 49 栗谷ツ 50 別所
 51 北通 52 南通 53 上内手 54 山形 55 難波田氏館跡
 56 貝塚山 57 西ノ原 58 東久保南 59 山崎 60 権平沢



第1図 富士見市内遺跡分布図 (1/30000)

中世では、城館跡である県指定旧跡の難波田氏館跡や宿道跡（多門氏館跡）、殿山道跡などで遺構が検出されている。難波田氏館跡では、郭跡や堀跡のほかには建物跡や橋脚跡などが検出され、宿道跡では堀跡や土塁跡、建物跡、墓坑などが検出されている。なお、柳瀬川流域の崖線付近には、鎌倉道（羽根倉道）が通っている。

第2節 発掘調査に至る経緯

市内の遺跡は、多くが市域西半部の武蔵野台地縁辺部に集中し、急激な市街化に伴う開発が行われてきた。

開発は主に住宅建設等の面積1,000㎡以下の小規模な開発が大半を占め、埋蔵文化財に対して多大な影響を与えてきている。このような開発による埋蔵文化財

の資的消費を防ぐため、小規模な開発に対して迅速な対応を行い、最低限の記録保存の措置を講じる必要があった。

そのため、富士見市教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に先立ち、試掘調査・発掘調査を行う体制を整えるとともに、実際に調査を実施し、記録保存等の措置を講じてきている。なお、財政的には、昭和52年度から国庫・県費補助金の交付を受け、昭和61年度から発掘調査費用の一部を市負担として実施している。

市内の水子地域では平成22年に市街化区域に再編入されたため開発行為が増加しており、近年は水子地域に所在する観音前遺跡や東台遺跡、別所遺跡などで調査の件数が増加している状況である。

No	遺跡・地点	所在地	面積 (㎡)	調査原因	調査期間	上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
1	宮脇遺跡 第55地点	羽沢3丁目 1562番2ほか	475.26	店舗	平成30年3月19日 平成30年4月23日～5月1日		古墳時代型穴住居跡1軒 【発掘調査】	35° 51' 4" 139° 32' 56"
2	御幸遺跡 第42地点	鶴馬2丁目3065-5	1107.45	保育所	3月26日 4月27日～5月14日		縄文時代型穴住居跡3軒、 集石2基【発掘調査】	35° 50' 28" 139° 32' 5"
3	水川前遺跡 第76地点	大字水子字東松井 1318-14ほか	482.84	個人専用 住宅	4月9日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 32" 139° 33' 38"
4	東台遺跡 第53地点 正綱遺跡 第14地点	大字水子 4567-5ほか	141.13	道路建設	4月12日		遺構なし 【工事立合】	35° 50' 5" 139° 33' 4"
5	水川前遺跡 第77地点	大字水子字東松井 1319-1ほか	390.44	宅地造成 分譲住宅	4月16日		遺構なし 【慎重工事】	35° 51' 2" 139° 33' 4"
6	黒貝戸遺跡 第41地点	諏訪1丁目 1713-3、1714-6	1239.41	宅地造成	4月23日～24日		平安時代型穴住居跡1軒、 掘立柱建物跡1棟、地点 貝塚1か所、溝跡2条等 【発掘調査】	35° 50' 13" 139° 32' 52"
7	黒貝戸遺跡 第42地点	諏訪1丁目 1711-1の一部	137.01	事務所 兼用住宅	5月2日		遺構なし 【慎重工事】	35° 51' 0" 139° 33' 3"
8	東前遺跡 第24地点	大字水子字東前 1801、1806	1120	宅地造成	5月10日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 32" 139° 33' 15"
9	上手手遺跡 第10地点	大字上南畑字上手 14-1、17ほか	5843.52	宅地造成 分譲住宅	5月21日～5月29日 6月6日～9月18日		弥生時代型穴住居跡26軒、 掘立柱建物跡2棟、方形 周溝堀1基等 【発掘調査】	35° 51' 49" 139° 33' 15"
10	水川前遺跡 第78地点	大字水子字西北側 1426番1	263	分譲住宅	6月5日 7月9日～19日		縄文時代型穴住居跡1軒、 平安時代型穴住居跡2軒等 【発掘調査】	35° 50' 38" 139° 33' 47"
11	殿山遺跡 第10地点	諏訪2丁目 2090番1ほか	393.68	集合住宅	6月13日 6月19日～22日		縄文時代型穴住居跡1軒 【発掘調査】	35° 50' 50" 139° 33' 4"
12	水川前遺跡 第79地点	大字水子字西北側 1442-1、1443ほか	267	個人専用 住宅	6月22日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 40" 139° 33' 48"
13	水川前遺跡 第80地点	大字水子字西北側 1426-1ほか	478.34	道路	6月22日 7月9日～19日		縄文時代型穴住居跡2軒、 平安時代型穴住居跡1軒 【発掘調査】	35° 50' 39" 139° 33' 47"
14	神明遺跡 第33地点	大字水子字東石井 2580-12、2581-1	612.22	分譲住宅	6月26日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 17" 139° 34' 2"

第1表 平成30年度調査地点一覧1（平成31年3月4日現在）

No	道路・地点	所在地	面積 (㎡)	調査原因	調査期間	上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
15	宮脇道路 第45地点	大字勝瀬字宮脇 857番地1	179.51	個人専用 住宅	6月29日		遺構なし 【慎重工事】	35° 51' 4" 139° 32' 29"
16	宮脇道路 第56地点	羽沢3丁目 1588番	234.48	分譲住宅	7月2日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 54" 139° 32' 56"
17	関沢道路 第40地点	関沢3丁目 4578番7ほか	267.44	個人専用 住宅	7月12日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 4" 139° 32' 49"
18	宮脇道路 第57地点	羽沢3丁目 1561番14の一部	472.11	分譲住宅 道路	7月19日 8月10日～21日	平安時代聚穴住居跡3軒 【発掘調査】		35° 51' 5" 139° 32' 56"
19	宿道跡 第12地点	諏訪2丁目 3628-2、3628-4	303.63	分譲住宅	7月25日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 57" 139° 33' 15"
20	観音前道路 第50地点	大字水子字城ノ下 3074-1の一部	175.19	倉庫	7月30日		奈良時代聚穴住居跡1軒 【現状保存】	35° 50' 24" 139° 34' 21"
21	打越道路 第44地点	東みずは台4丁目 25番地の一部	101.16	分譲住宅	8月1日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 27" 139° 33' 10"
22	永川前道路 第81地点	大字水子字寺下 1773-2ほか	2271	駐車場	8月1日		縄文土坑等 【現状保存】	35° 50' 34" 139° 33' 57"
23	羽沢道路 第81地点	羽沢1丁目 668番7	103.74	分譲住宅	8月6日		遺構なし 【慎重工事】	35° 51' 14" 139° 32' 35"
24	羽沢道路 第82地点	羽沢1丁目 668番9	339.26	分譲住宅	8月6日		遺構なし 【慎重工事】	35° 51' 14" 139° 32' 34"
25	栗谷ツ道跡 第54地点	大字水子 4962-1ほか	452.63	集合住宅	8月20日 9月10日～20日	弥生時代聚穴住居跡1軒、 平安時代聚穴住居跡2軒等 【発掘調査】		35° 49' 59" 139° 33' 19"
26	宮脇道路 第58地点	羽沢3丁目 1561番10の一部ほか	214.61	分譲住宅	8月22日		遺構なし 【慎重工事】	35° 51' 4" 139° 32' 55"
27	松山道跡 第10地点	水谷2丁目 7番7	227	分譲住宅	9月7日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 25" 139° 33' 28"
28	谷津道跡 第48地点	鶴瀬東2丁目 2361番10の一部	161.22	共同住宅 店舗	10月1日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 43" 139° 32' 38"
29	新田道跡 第17地点	関沢1丁目 2714-2	259	共同住宅	10月3日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 25" 139° 32' 48"
30	上沢道跡 第26地点	上沢1丁目 34-1	410	賃貸住宅	10月16日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 56" 139° 32' 3"
31	永川前道跡 第82地点	大字水子 1327-1の一部	294.61	集合住宅	11月1日 11月2日	縄文時代9跡1基 【発掘調査】		35° 50' 36" 139° 33' 39"
32	東台道跡 第54地点	大字水子字東台 4451-2の一部ほか	2980.31	分譲住宅	11月27日～12月3日 12月4日	縄文時代9跡12基 【発掘調査】		35° 50' 10" 139° 33' 50"
33	上沢道跡 第25地点	上沢3丁目 31-3の一部ほか	28	鉄道	12月13日		遺構なし 【工事立会】	35° 50' 57" 139° 32' 1"
34	永川前道跡 第83地点	大字水子 1507番58	369.65	分譲住宅	12月18日		遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 39" 139° 33' 51"
35	御蔵道跡 第43地点	鶴瀬1丁目 2187番3、2187番8	210.33	個人専用 住宅	平成31年1月10日～11日 1月15日～17日	縄文時代聚穴住居跡1軒 【発掘調査】		35° 50' 52" 139° 32' 41"
36	山家道跡 第22地点	羽沢1丁目 1417-1ほか	63	個人専用 住宅	1月22日		遺構なし【慎重工事】	35° 51' 12" 139° 33' 47"
37	北通道跡 第83地点	針ヶ谷1丁目 20番4	204.04	個人専用 住宅	2月12日		遺構なし【慎重工事】	35° 51' 12" 139° 32' 47"
38	羽沢道跡 第83地点	羽沢1丁目736	2.099	宅地造成	2月18日～20日	縄文時代聚穴住居跡2軒、 土坑1基【発掘調査】		35° 51' 18" 139° 32' 39"
39	新田道跡 第18地点	関沢1丁目 2700番19	59	個人専用 住宅	2月25日		遺構なし【慎重工事】	35° 50' 26" 139° 32' 44"

第2表 平成30年度調査地点一覧2（平成31年3月4日現在）

第2章 大谷遺跡第5・6地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

大谷遺跡は鶴瀬支台の舌状台地先端部に位置しており、遺跡の東側に荒川沖積低地を臨む。遺跡の西側および北側は砂川堀に注ぐ小河川によって形成された小支谷によって画され、南～北方向に細長く延びる舌状台地の先端部に立地している。

遺跡の標高は18～19mで、荒川地底との比高差は12～13mを測る。遺跡の載る台地崖線は比較的急峻な傾斜を呈している。

遺跡の周辺には、南側の舌状台地基部に山室遺跡があり、西側の小支谷を挟んで羽沢遺跡、小支谷を挟んだ北西側に貝塚山遺跡が立地している。

山室遺跡では、旧石器時代ではローム層第Ⅳ層上部、第Ⅵ層から石器集中分布および礫群が検出され、縄文時代では早期後半・縄文島台式期住居跡2軒、炉穴、中期・加曽利EⅠ式期の屋外埋亮が検出されている。早期住居跡からは小貝塚が確認されている。

羽沢遺跡では、これまでに100軒を超す縄文時代中期・勝坂式期～加曽利E式期住居跡が検出され、小支谷の谷頭を囲む馬蹄形状の集落跡であることが判明している。



第2図 大谷遺跡第5・6地点 (1/5000)

貝塚山遺跡では、旧石器時代、縄文時代早期後半・中期・後期の遺構・遺物が多数検出されている。

大谷遺跡では、これまでに4地点で調査が行われており、縄文時代土坑、弥生時代後期住居跡1軒、平安時代住居跡1軒が検出されている。

今回調査を行った第5地点は、遺跡の南寄りに位置し、その東側・西側が斜面で尾根状になった頂部平坦地に立地している。本地点は遺構が検出された第4地点の南側に位置していることから遺構が分布する可能性が考えられた。

第6地点は第5地点の道路を挟んで北側に位置しており、さらにその北側に隣接する第4地点では弥生時代住居跡1軒、平安時代住居跡1軒が確認されていることから遺構が分布する可能性が高いと考えられた。

第2節 第5地点の調査

1. 発掘調査の経過

第5地点は保育所の建設に伴い、平成26年9月17日～18日に試掘調査を実施した。面積887.81㎡。試掘調査は調査区にトレンチを任意に設定し、重機により表土を除去した後に人力で遺構確認を行った。その結果、地表下約30cmで縄文時代炉穴、土坑が確認された。

事業主と協議したところ、工事の掘削により遺構に影響が及ぶと判断し、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

本調査は平成26年10月7日～10月9日に実施した。

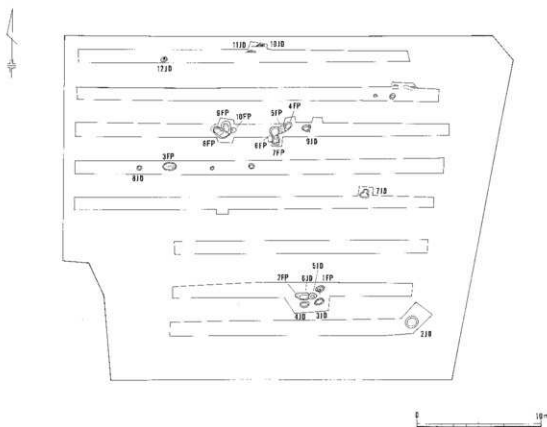
10月7日—本調査開始。遺構分布範囲を確認し、炉穴・土坑を精査。

10月8日—セクション図・平面図の作成。

10月9日—全測図作成。写真撮影。

埋戻し作業実施。本調査終了。

本地点は耕作による攪乱が著しく、依存状況はあまり良くない状態であった。



第3図 大谷遺跡第5地点遺構配置図 (1/300)

2. 縄文時代の遺構と遺物

A. 炉穴

第1号炉穴 (1FP) (第4図)

[位置] 調査区南側に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、掘り込みの規模は長軸約70cm×短軸約42cm×深さ約14.4cmを測る。主軸方位は北東-南西。断面形は皿状を呈する。中央部にわずかに被熱した焼土が認められる。

[覆土] 淡赤褐色土・淡暗褐色土・淡黄褐色土を基調とし3層に層別される。

[遺物出土状況] なし

[時期] 詳細不明

第2号炉穴 (2FP) (第4図)

[位置] 調査区南側に位置する。

[構造] 平面形は円形を呈し、掘り込みの規模は第6号土坑 (6JD) と重複しており詳細は不明だが、長軸25cm以上×短軸約25cm×深さ約4.4cmを測る。主軸方位は東-西。断面形は確認できる範囲では皿状を呈するが、上層部は削られている。

[覆土] 確認できる範囲では焼土のみが認められる。

[遺物出土状況] なし

[時期] 詳細不明

第3号炉穴 (3FP) (第4図)

[位置] 調査区西側に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、その規模は長軸約1.1m×短軸約59cm×深さ3.5cmを測る。主軸方位は東-西。断面形は皿状を呈する。東寄りに被熱して焼土が認められる。

[覆土] 上層部は削られているが、確認できる範囲では暗赤褐色土を基調とし、焼土を多量に含んでいる。

[遺物出土状況] なし

[時期] 詳細不明

第4号炉穴 (4FP) (第4図)

[位置] 調査区中央部に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、その規模は確認できる範囲では長軸57cm以上×短軸約51cm×深さ約11.5cmを測る。主軸方位は北東-南西。第5・6号炉穴 (5FP・6FP) と重複しており、両方の炉穴により切られている。底面のほぼ全面にわたっ

て被熱による焼土が認められる。

[覆土] 5 F P・6 F Pにより切られて詳細は不明だが、確認できる範囲では淡赤褐色土を基調とし焼土がよく発達している。

[遺物出土状況] 覆土より縄文時代早期の条痕文を施した土器小片が少量出土している。

[時期] 縄文時代早期後半条痕文期

第5号炉穴 (5 F P) (第4図)

[位置] 調査区中央部に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、その規模は長軸約68cm×短軸約56cm×深さ約19.8cmを測る。主軸方位は北東-南西。4 F P・6 F Pと重複しており、4 F Pを切っている。底面の西寄りに被熱による焼土が認められる。

[覆土] 確認できる範囲では、明褐色土を基調とし焼土はあまり発達していない。

[遺物出土状況] 覆土より縄文時代早期の条痕文を施した土器小片が少量出土している。

[時期] 縄文時代早期後半条痕文期

第6号炉穴 (6 F P) (第4図)

[位置] 調査区中央部に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、その規模は確認できる範囲では長軸83cm以上×短軸71cm以上×深さ約17.7cmを測る。主軸方位は北東-南西。4 F P・5 F P・第7号炉穴 (7 F P) と重複し、4 F Pを切っている。

[覆土] 確認できる範囲では、淡褐色土・暗褐色土を基調とし焼土はほとんど発達していない。

[遺物出土状況] 覆土より縄文時代早期の条痕文を施した土器小片が少量出土している。

[時期] 縄文時代早期後半条痕文期

第7号炉穴 (7 F P) (第4図)

[位置] 調査区中央部に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、その規模は長軸約79cm×短軸約57cm×深さ約28.5cmを測る。主軸方位は南-北。6 F Pと重複している。底面は全面にわたって被熱による焼土が認められる。

[覆土] 暗黄褐色土・暗褐色土・赤褐色土を基調とし、焼土が非常に発達している。

[遺物出土状況] 覆土の上層部～中層部に縄文時代早期後半条痕文期の土器片がやや密集して検出された。

[時期] 縄文時代早期後半条痕文期

第8号炉穴 (8 F P) (第4図)

[位置] 調査区中央部に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、主軸方位は北西-南東。炉穴の北西側に被熱による焼土が広範囲に広がり掘り込みが深い。南東側はやや浅く北西方向に向かって緩傾斜しており、足場と考えられる。その規模は確認できる範囲では長軸約134cm×短軸74cm以上、火床部では深さ約45.5cm、足場部分では深さ約37.8cmを測る。第9号炉穴 (9 F P) と重複している。

[覆土] 淡暗褐色土・淡赤暗褐色土・赤暗褐色土・淡暗黄褐色土を基調とし7層に分層される。遺存状況が良好で焼土が非常に発達している。

[遺物出土状況] 覆土より縄文時代早期の条痕文を施した土器小片が少量出土している。

[時期] 縄文時代早期後半条痕文期

第9号炉穴 (9 F P) (第4図)

[位置] 調査区中央部に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、主軸方位は北北西-南南東。炉穴の北西側に被熱による焼土が広範囲に広がっている。その規模は長軸約119cm×短軸約74cm×深さ約43.5cmを測る。炉穴の南東側を足場としたと考えられる。8 F P・第10号炉穴 (10 F P) と重複している。

[覆土] 8 F P・10 F Pと重複し切られているため、セクション面では詳細は不明。しかし、火床面では発達した焼土が認められる。

[遺物出土状況] 覆土より縄文時代早期の条痕文期を施した土器小片が少量出土している。

[時期] 縄文時代早期後半条痕文期

第10号炉穴 (10 F P) (第4図)

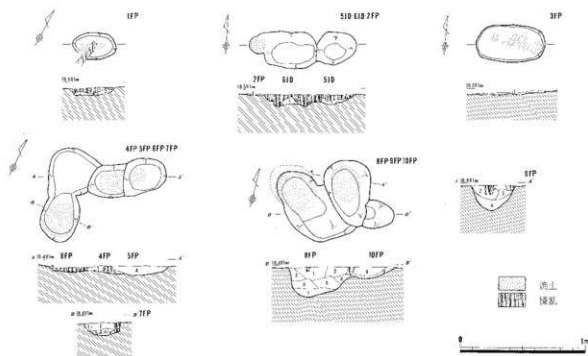
[位置] 調査区中央部に位置する。

[構造] 平面形は不整形円形を呈し、その規模は確認できる範囲では長軸44cm以上×短軸約44cm×深さ約25.5cmを測る。主軸方位は東-西。8 F P・9 F Pと重複し、8 F Pにより削られ、9 F Pを切っている。火床部は8 F Pにより削られ、かろうじて足場部分が残っていると考えられる。

[覆土] 確認できる範囲では、黒褐色土を基調とする。

[遺物出土状況] なし

[時期] 詳細不明



第1号坑穴 (1FP)

- 1 淡赤褐色土 ローム粒をわずかに含む。
焼土粒をやや多く含む。しまりやや強。粘性弱。
- 2 淡暗褐色土 しまり強。粘性弱。
- 3 淡黄褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強。粘性弱。

第2号坑穴、第5・6号土坑 (2FP, 5・6JD)

【5・6JD】

- 1 粘褐色土 ローム粒を少量含む。しまりやや強。粘性弱。

【2FP】

- 2 淡赤褐色土 ローム粒を少量含む。焼土粒をやや多く含む。
しまりやや強。粘性弱。

第3号坑穴 (3FP)

- 1 暗赤褐色土 ローム粒をわずかに含む。焼土粒を少量含む。
しまり強。粘性弱。

第4・5・6号坑穴 (4・5・6FP: A-A')

【6FP】

- 1 淡暗褐色土 焼土粒をわずかに含む。しまりやや強。粘性弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒・焼土粒をわずかに含む。しまり強。
粘性弱。

【4FP】

- 3 明褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまりやや強。
粘性弱。

【5FP】

- 4 淡暗赤褐色土 ローム粒を少量含む。焼土粒をやや多く含む。
しまり強。粘性弱。
- 5 淡暗赤褐色土 4層よりやや赤色味が強い色調を呈する。
ローム粒をわずかに含む。焼土粒を多量に含む。
しまり強。粘性弱。

第7号坑穴 (7FP: B-B')

- 1 暗黄褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり強。
粘性弱。
- 2 暗褐色土 しまり強。粘性強。
黒色味が強い色調を呈する。
- 3 暗褐色土 焼土粒をやや多く含む。しまり強。粘性弱。
焼土粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。

第9号坑穴 (9FP A-A')

- 1 淡暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。しまりやや強。
粘性弱。
- 2 淡暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。
- 3 明褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。
- 4 淡暗赤褐色土 ローム粒を少量含む。焼土粒を多量に含む。
しまり強。粘性弱。

第8・10号坑穴 (8・10FP: B-B')

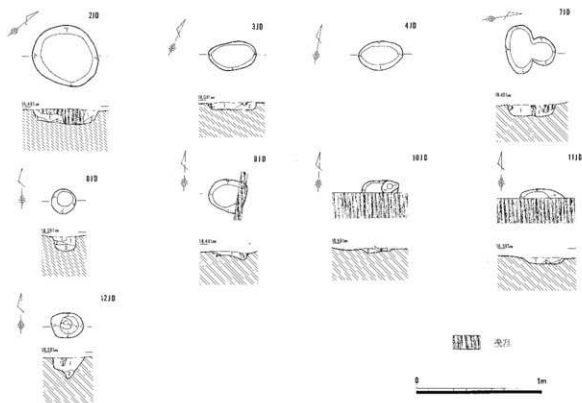
【8FP】

- 1 淡暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。
- 2 淡暗褐色土 ローム粒を多量に含む。焼土粒の影響を受けていると考えられる不安定な層。しまり弱。
粘性弱。
- 3 淡暗赤褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまり強。
粘性弱。
- 4 暗赤褐色土 焼土粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。
- 5 淡暗褐色土 焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。
- 6 暗赤褐色土 ローム粒をわずかに含む。
焼土粒を多量に含む。しまり強。粘性弱。
- 7 淡暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。焼土粒をわずかに含む。しまり強。粘性弱。

【10FP】

- 8 黒褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまりやや強。
粘性弱。
- 9 黒褐色土 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
しまり強。粘性弱。

第4図 第1～10号坑穴 (1～10FP: 1/60)



第2号土坑 (2JD)

- 1 暗褐色土 しまり強、粘性弱。
- 2 淡褐色土 ローム粒をやや多く含む。しまり強、粘性弱。

第3号土坑 (3JD)

- 1 淡褐色土 しまり強、粘性弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強、粘性弱。

第7号土坑 (7JD)

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。焼土粒を少量含む。しまり弱、粘性弱。

第8号土坑 (8JD)

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強、粘性弱。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり強、粘性弱。
- 3 淡褐色土 ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。しまり強、粘性弱。

第9号土坑 (9JD)

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強、粘性弱。
- 2 淡褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強、粘性弱。

第10号土坑 (10JD)

- 1 淡褐色土 しまり強、粘性弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒をやや多く含む。しまり強、粘性弱。

第11号土坑 (11JD)

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまりやや強、粘性弱。
- 2 暗褐色土 ローム粒・ロームブロックを多量に含む。しまりやや強、粘性弱。

第12号土坑 (12JD)

- 1 暗褐色土 ローム粒をわずかに含む。しまり強、粘性弱。
- 2 淡褐色土 ロームブロックを多量に含む。しまり強、粘性弱。

第5図 第2～12号土坑 (2～12JD : 1/60)

炉穴・土坑出土遺物 (第6図1～14)

1, 2は6FPより出土。1は口縁部破片。内外面に貝殻条痕文が施される。胎土に繊維痕が認められる。

2は燃系1を地文として施している。

3～9は7FPより出土。3～7は口縁部破片。3～8は貝殻条痕文が施され、胎土に繊維痕が認められる。

9は無文で、胎土に繊維痕が認められる。

10～12は8FPより出土。10は口縁部破片。無節rによる燃系文が地文として施される。

11は無節1による燃系文が施される。

12は貝殻条痕文が施される。

13は9FPより出土。貝殻条痕文が施される。

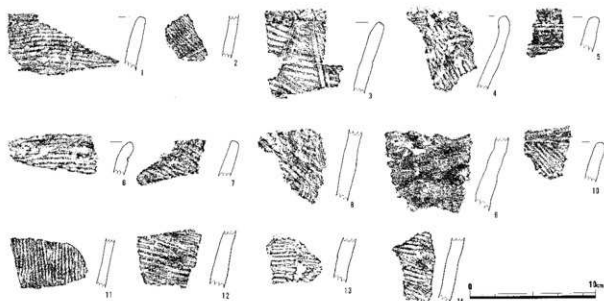
14は6JDより出土。内外面に貝殻条痕文が施される。胎土に繊維痕が認められる。

B. 土坑

土坑については、以下の一覧表にまとめて記載する。

遺構名	位 置	平面形	規 模 (cm)			備 考
			長軸	短軸	深さ	
第2号土坑 (2 J D)	調査区南東端	不整形円形	106	94	247	
第3号土坑 (3 J D)	調査区南側	不整形円形	77	45	124	
第4号土坑 (4 J D)	調査区南側	不整形円形	71	45	128	
第5号土坑 (5 J D)	調査区南側	不整形円形	67	53	169	6 J Dと重複
第6号土坑 (6 J D)	調査区南側	不整形円形	84	58	196	5 J D・2 F Pと重複
第7号土坑 (7 J D)	調査区東側	不整形	79	78	204	
第8号土坑 (8 J D)	調査区西側	円形	40	40	218	
第9号土坑 (9 J D)	調査区中央部	不整形円形	60	52	95	
第10号土坑 (10 J D)	調査区北側	不整形円形	57	18以上	75	攪乱により1/2削平
第11号土坑 (11 J D)	調査区北側	不整形円形	72	14以上	125	攪乱により1/2削平
第12号土坑 (12 J D)	調査区北西端	不整形円形	52	41	34	

第3表 大谷遺跡第5地点縄文時代土坑一覧表



第6図 大谷遺跡第5地点出土遺物 (1/3)

第3節 第6地点の調査

1. 発掘調査の経過

第6地点は長屋集合住宅の建設に伴い、平成28年8月23に試掘調査を実施した。面積498.45㎡。試掘調査は調査区にトレンチを任意に設定し、重機により表土を除去した後に人力で遺構確認を行った。その結果、地表下35～40cmで弥生時代の住居跡1軒が確認

された。

事業主と協議したところ、工事の掘削により遺構に影響が及ぶと判断し、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

本調査は平成28年9月1日～9月9日に実施した。

9月1日一本調査開始。表土除去。遺構分布範囲を確認し、住居跡を精査。

9月6日—セクション図の作成。

9月7日—ベルト除去。遺物出土状況図作成

9月9日—貯蔵穴等の精査・セクション図・平面図の作成。住居跡平面図作成。全測図作成。
写真撮影。本調査終了。

2. 弥生時代の遺構と遺物

A. 住居跡

第2号住居跡 (2Y) (第8～10図)

〔位置〕調査区中央部に位置する。

〔構造〕(平面形) 隅丸方形 (規模) 規模は長軸約9.08m×短軸約7.82m×深さ約36cmを測る。(主軸方位) N-32°-W (壁高) 壁は比較的角度で立ち上がり、床面から2.8～30.7cmを測る。(壁溝) なし (床) 住居跡は壁に沿った外周部は掘り込みが浅くテラス状になっており、中央部はそこから一段深くなっている。テラス部分では所々で硬化面が残るが、中央部は床面は軟弱である。(柱穴) 主柱穴と考えられる掘り込み4か所 [第8図柱穴1～4] が確認され、その規模は径65～100cm×深さ29.5～59cmを測る。またテラス上にも確認できるもので柱穴と考えられる掘り込みが3か所 [第8図柱穴5～7] が認められ、その規模は径40～90cm×深さ22～44.7を測る。(炉) 【C-C'】 地床炉。住居跡の中央部のやや北寄りに位置し、掘り込みの規模は長軸約99cm×短軸約79cm×深さ約8.1cmの不整形円形を呈する。また、炉の掘り込みの南寄りには白色粘土により堤防で囲むようにC字状凸帯が施される。凸帯の北側、掘り

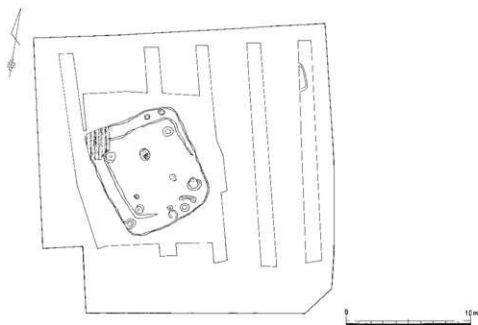
込み中央部は被熱して焼土が分布している。覆土は淡赤暗褐色・白色粘土・焼土を基調とし3層に分層される。【D-D'】 住居跡の中央部の南東寄りに位置する。掘り込みはないが、長軸約60cm×短軸約54cmの楕円形を呈する範囲で被熱した硬化面や焼土が認められる。(貯蔵穴) 住居跡の南側壁面に沿って、やや東寄りに位置する。掘り込みの規模は長軸約71cm×短軸約65cm×深さ約47.3cmで不整形円形を呈する。貯蔵穴の上層部から中層部からは小型の碗、甕の台部、甕の小片、底面近い下層部からは扁平な凝灰質砂岩 (第46図12) が敷かれるような状況で検出された。覆土は淡暗褐色土・暗褐色土を基調とし4層に分層される。貯蔵穴の北東側に長さ約137cm×幅20～38cm×高さ2.8～8.7cmのL字状の凸帯が周囲と面するように配置されている。(階段掘り込み) 住居跡の南側壁面に沿った中央部に位置する。その規模は長軸約78cm×短軸約67cm×深さ約42.4cmの不整形方形を呈する。掘り込みの上層部～中層部に小形甕、甕の破片が検出された。

〔覆土〕 黒褐色土・暗褐色土・淡暗黄褐色土・淡暗褐色土を基調とし5層に分層される。

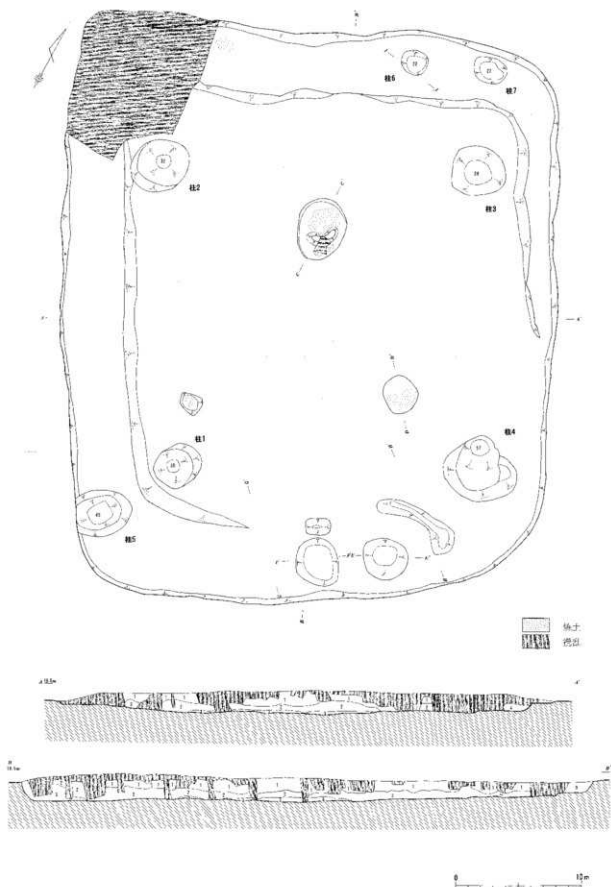
〔遺物出土状況〕 住居跡の南側、特に貯蔵穴の周辺 (G-G'、H-H') に集中して分布する。遺物は甕、甕の小片が多数検出された。

〔時期〕 弥生時代後期末～古墳時代前期初頭

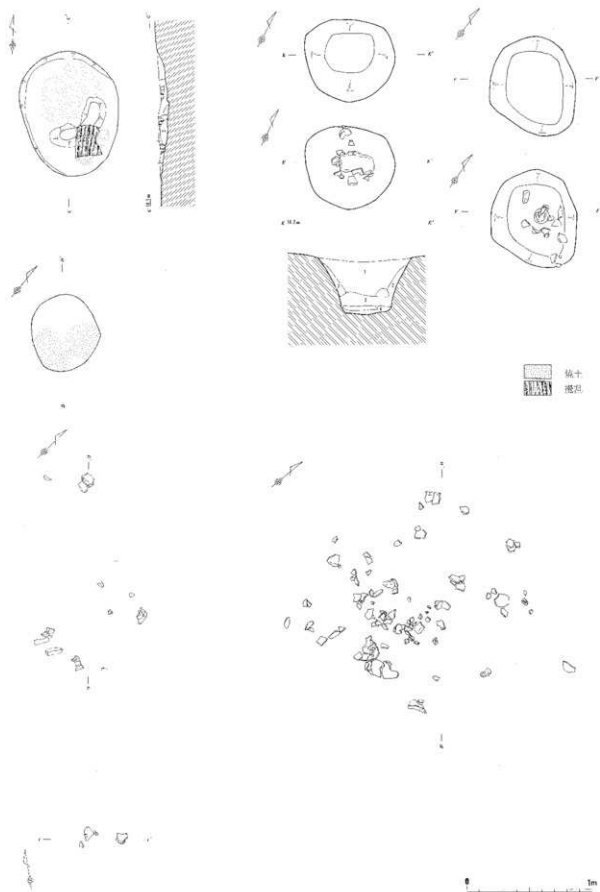
〔備考〕 住居跡の規模が大きく、壁に沿ってテラスを有する特殊な形状を呈する。



第7図 大谷遺跡第6地点遺構配置図 (1/300)



第8図 第2号住居跡1 (2Y:1/60)



第9図 第2号住居跡2 (2Y:1/30)

第2号住居跡 (2Y: A-A', B-B')

- | | |
|--------|---|
| 1 黒褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまり強、粘性弱。 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。しまり強、粘性弱。 |
| 3 淡褐色土 | ローム粒をやや多く含む。しまりが非常に強い。粘性弱。 |
| 4 淡褐色土 | ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。しまりやや強い。粘性弱。 |
| 5 暗褐色土 | 2層よりやや暗く褐色味が強い色調を呈する。ローム粒をわずかに含む。しまりやや強い。粘性弱。 |

第2号住居跡伊 (2Y: C-C')

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1 淡褐色土 | 粘土質を多量に含む。炭化物をわずかに含む。しまりやや強い。粘性弱。 |
| 2 赤褐色土 | 被熱したチカチカに固まった土層。しまり強。粘性弱。 |
| 3 白色粘土 | しまり強、粘性強。 |

第2号住居跡貯蔵穴 (2Y: E-E')

- | | |
|--------|--|
| 1 淡褐色土 | ローム粒をわずかに含む。しまりやや強い。粘性弱。 |
| 2 淡褐色土 | 1層よりやや明るい色調を呈する。ローム粒を多量に含む。しまりやや強い。粘性弱。 |
| 3 暗褐色土 | しまり強、粘性弱。 |
| 4 淡褐色土 | 1・2層より明るく褐色味が強い色調を呈する。ローム粒を多量に含む。しまり強、粘性弱。 |

第10図 第2号住居跡3 (2Y: 1/30)

第2号住居跡出土遺物 (第11図)

1～4は壺。1はH-H'の下層より出土。底部を欠損。法量は口径約22cm(推定)×最大胴径約24.8cm(推定)×現存高約18.8cm。外面は頸部では縦方向に、胴部は斜位にハケ目調整を施している。内面は口縁部で横方向にハケ目調整を施している。また、口唇部には棒状工具による刻みが施されている。色調は暗褐色で、外面に煤が付着している。胎土に1～2mmの礫を少量含む。

2は底部を欠損。法量は口径約22.5cm(推定)×最大胴径約25.9cm×現存高約21.5cm。外面は頸部は縦方向に、胴部は斜位にハケ目調整を施している。内面では口縁部で横方向にハケ目調整を施している。また、口唇部に棒状工具による刻みを施している。色調は暗褐色。胎土に礫を少量含む。

3はH-H'上層より出土。口縁部破片。口縁から胴部にかけて縦方向にハケ目調整を施している。口唇部には棒状工具による刻みを施している。頸部はくの字状にくびれる。色調は暗褐色。胎土に1～2mmの礫をやや多く含む、焼成堅緻。

4はH-H'上層より出土。底部欠損。法量は口径約14cm(推定)×最大胴径約14.7cm(推定)×現存高約12.8cm。外面は頸部では縦方向に、胴部では横方向にハケ目調整を施している。また、内面は頸部で横方向にハケ目調整を施している。色調は暗褐色で、胴部に煤が付着している。胎土に1～2mmの礫、白色粒子を含み、焼成堅緻。

5～7は付付き壺。5は柱穴4より出土。台部破片。法量は底径約9.1cm×現存高約7cm。外面にハケ目調整を施しているが、摩耗が著しい。色調は暗褐色。胴部と台部の接合部分に煤が付着している。胎土に1mmの礫を少量含む。

6はG-G'より出土。台部破片。法量は底径不明×現存高約8.8cm。外面はハケ目調整、内面はヘラ整形が施される。色調は淡暗褐色。胎土に1mmの礫・白色粒子を少量含む、焼成堅緻。

7は貯蔵穴(E-E')の中層部より出土。台部破片。法量は底径約9.3cm×現存高約7.3cm。外面はハケ目調整、内面はヘラ整形が施される。色調は暗褐色。胎土に1mmの礫を少量含む、焼成堅緻。

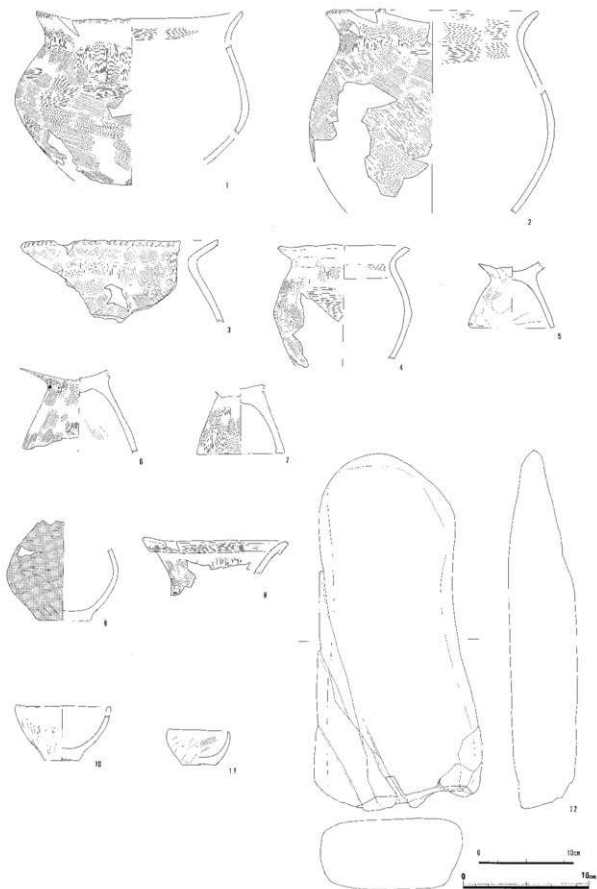
8・9は壺。8は小形の壺で階段掘り込み(F-F')より出土。口縁部から頸部にかけて欠損。法量は口径不明×最大胴径約11.7cm×底径約6.1cm×現存高約10.6cm。外面はヘラミガキ整形で赤彩を施している。内面は摩耗が著しい。色調は淡赤褐色。焼成堅緻。

9は口縁部破片。法量は口径約15.6cm×現存高約6.4cm。折り返し口縁。口縁部は横方向に、頸部は縦方向にハケ目調整を施す。色調は暗褐色。胎土に1mmの礫・白色粒子を多量に含む、焼成堅緻。

10、11は碗。10は貯蔵穴(E-E')の中層部より出土。4分の1欠損。法量は口径約10cm×底径約3.8cm×器高約5.8cm。内外面にヘラミガキ整形が丁寧に施される。色調は暗褐色。胎土に1mmの礫、白色粒子を少量含む、焼成堅緻。

11は貯蔵穴(E-E')の中層部より出土。完形品。法量は口径約5.4cm×底径約3.5cm×器高約3.8cm。内外面にヘラミガキ整形が施される。色調は淡暗褐色。胎土に1～3mmの礫を少量含む、焼成堅緻。

12は貯蔵穴(E-E')の底面直上より出土。法量は規模長さ約28cm×幅約13.2cm×厚さ5.4cm、重量2.52kg。石材は凝灰質砂岩。表面が磨いたように滑らかになっており、砥石として利用された可能性が考えられる。



第11図 第2号住居跡出土遺物 (2Y: 1/4、1/3)

第3章 東台遺跡第44地点

第1節 遺跡の概要

1. 遺跡の立地と調査地点の概要

東台遺跡は、市域南部の大字水子に位置し、北東へ向かって流れる柳瀬川を南東側に臨む台地縁辺部に位置している。

遺跡付近の台地上の標高は約19～20m前後であるが、台地下の低地部は標高約8m前後で、比高差約11mを測る急峻な崖が続いている。崖線には湧水により開析された小支谷が存在し、西側に隣接する正網遺跡、東側に隣接する神明遺跡との間においても小支谷が形成されている。

また、東台遺跡は台地縁辺部の標高が最も高く、台地内部へ向かうに従い、標高は少しずつ低くなっている。

これまでに43地点の調査が実施され、旧石器時代・縄文時代・弥生時代後期～古墳時代初期・平安時代・中世にかけての遺構が検出されている。特に平安時代においては、多数の竪穴住居跡が検出されており、9世紀から10世紀にかけての市内有数の集落となっている。

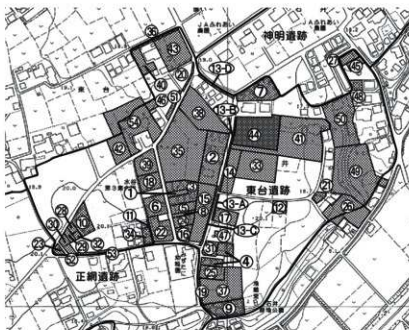
旧石器時代では第9地点から、ナイフ形石器が出土している。

縄文時代においては、住居跡の検出はないものの土坑やピットが確認され、前期後半から末葉（諸磯式期～十三菩提式期）、中期（加曾利式期）の土器片が出土している。また、早期には条痕文期炉穴が第37地点等で検出されている。

弥生時代では、遺跡中央部の第1・3・5・8・18・24地点では方形周溝墓3基が検出されている。また、遺跡南部の第19・37地点で弥生時代後期～古墳時代初期の竪穴住居跡7軒が見つかり、当該期の集落の中心は遺跡南部に想定される。

平安時代の竪穴住居跡は70軒を超え、掘立柱建物跡、溝跡などの遺構が多数検出され、9世紀後半～10世紀初頭にかけての遺物が多数出土している。また、第10地点ではクロコピットを伴う工房跡が検出されている。

中世では、鎌倉道（羽根倉道）が当遺跡南側の崖線近くを通過していたと伝えられており、崖線に近い第9地点からは、中世以降の土坑群等が密集して検出されている。



第12図 東台遺跡第44地点 (1/5000)

2. 発掘調査の経過

第44地点は遺跡北部に位置する。農地改良に伴い、平成27年11月18日～25日に試掘調査を実施した結果、縄文時代の土坑7基（20～26 J D）、平安時代の竪穴住居跡6軒（76～81 H）、掘立柱建物跡1棟（第4号掘立柱建物跡）、溝跡1条（15 M）、土坑4基（107～110 H D）、柱穴列1条（第1号柱穴列）が検出された。検出された遺構は、農地改良による掘削等の影響が及び、十分な保護層が確保できない見込みであったため、記録保存の発掘調査を平成27年11月27日～12月22日、平成28年2月10日～3月16と二回に分けて実施した。

第2節 縄文時代の遺構と遺物

第20号土坑 (20JD) (第14図)

[位置] 調査区中央部

[構造] 規模は長軸272cm×短軸149cm×深さ54cmを測る。

主軸方位はN-47°-W。平面形は不整形を呈する。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、8層に分層される。

[時期] 出土遺物は無いが、覆土の様子から縄文時代と考えられる。

第21号土坑 (21JD) (第14図)

[位置] 調査区北東部

[構造] 規模は長径142cm×短径142cm×深さ28cmを測る。主軸方位はN-12°-W。平面形は円形を呈する。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

[遺物出土状況] 1は、割れた状態で覆土上層から下層にかけて出土している。

[時期] 縄文時代前期末葉

第22号土坑 (22JD) (第14図)

[位置] 調査区北東部

[構造] 規模は長径128cm×短径106cm×深さ37cmを測る。

主軸方位はN-2°-E。平面形は楕円形を呈する。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、4層に分層される。

[遺物出土状況] 縄文土器片が、覆土上層から下層にかけて出土している。

[時期] 縄文時代前期末葉

第23号土坑 (23JD) (第14図)

[位置] 調査区北東部

[構造] 規模は長軸185cm×短軸134cm×深さ38cmを測る。主軸方位はN-13°-E。平面形は不整形を呈する。北部でピットを確認した。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、7層に分層される。

[遺物出土状況] 縄文土器片や石器が、覆土中層から下層にかけて出土している。

[時期] 縄文時代前期末葉

第24号土坑 (24JD) (第14図)

[位置] 調査区東部

[構造] 規模は長径187cm×短径153cm×深さ44cmを測る。主軸方位はN-87°-E。平面形は楕円形を呈する。南部でピットを確認した。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

[時期] 出土遺物は無いが、覆土の様子から縄文時代と考えられる。

第20号土坑土層解説 (20JD: A-A', B-B')

- | | | |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ロームブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 | 黒褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 4 | 暗褐色土 | ローム粒を中量含む。しまり・粘性普通。 |
| 5 | 褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり強い。粘性普通。 |
| 6 | 褐色土 | ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。しまり強い。粘性普通。 |
| 7 | 暗褐色土 | ロームブロックを微量含む。しまり強い。粘性普通。 |
| 8 | 暗褐色土 | ローム粒を中量含む。しまり強い。粘性普通。 |

第21号土坑土層解説 (21JD: A-A')

- | | | |
|---|------|--------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ロームブロック・焼土粒・炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |

第22号土坑土層解説 (22JD: A-A')

- | | | |
|---|------|----------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ロームブロック・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒を中量、焼土粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 | 褐色土 | ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 4 | 暗褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。 |

第23号土坑土層解説 (23JD: A-A')

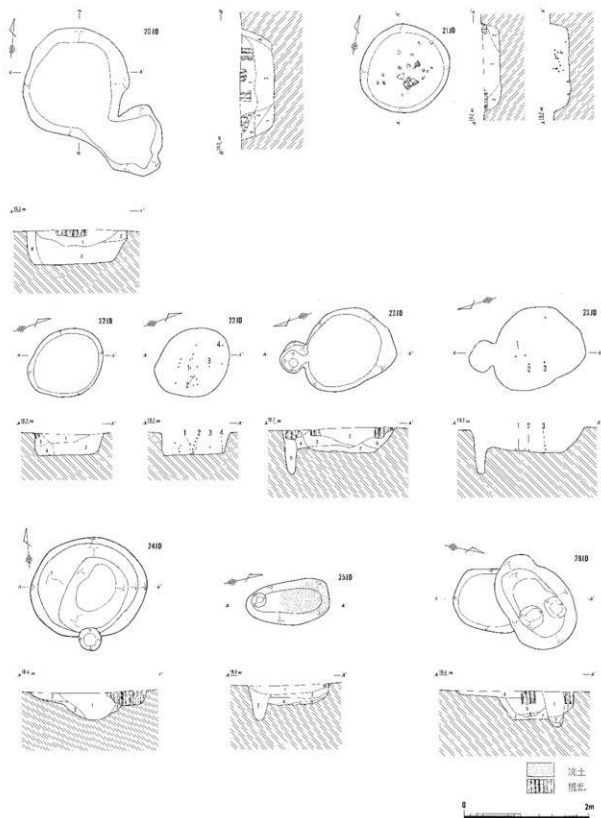
- | | | |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 | 黒褐色土 | ローム粒を少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 | 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 4 | 褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。 |
| 5 | 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 6 | 褐色土 | ロームブロックを多量含む。しまり・粘性普通。 |
| 7 | 褐色土 | ロームブロックを多量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |

第24号土坑土層解説 (24JD: A-A')

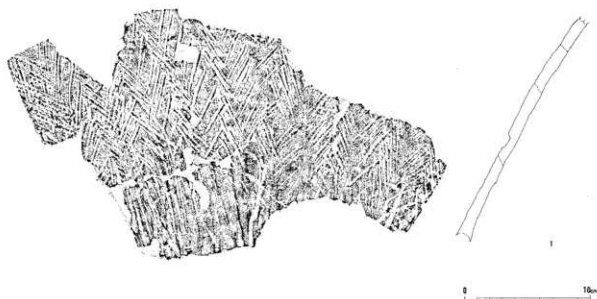
- | | | |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 | 暗褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 | 褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。 |

第25号土坑土層解説 (25JD: A-A')

- | | | |
|---|------|----------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒・焼土粒を微量含む。しまり普通。粘性弱い。 |
| 2 | 暗褐色土 | ローム粒を微量含む。しまり普通。粘性弱い。 |
| 3 | 暗褐色土 | 粘土粒を多量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性弱い。 |
| 4 | 褐色土 | ローム粒・焼土粒を多量含む。しまり・粘性普通。 |
| 5 | 赤褐色土 | 焼土粒を多量含む。しまり・粘性弱い。 |



第14図 第20～26号土坑 (20～26 J D) (1/60)



第15図 第21号土坑出土遺物 (21JD) (1/3)



第16図 第22号土坑出土遺物 (22JD) (1/3)

第25号土坑 (25JD) (第14図)

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 規模は長径132cm×短径70cm×深さ34cmを測る。主軸方位はN-7°-E。平面形は楕円形を呈する。南部でピットを確認した。また、中央部から北部にかけての底面で、火熱による赤変硬化が確認された。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、5層に分層される。

〔時期〕 出土遺物は無いが、覆土の様子から縄文時代と考えられる。

第26号土坑 (26JD) (第14図)

〔位置〕 調査区東部

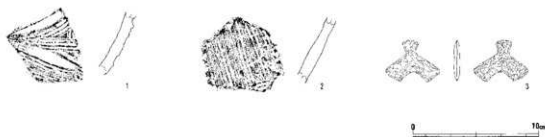
〔構造〕 規模は長軸190cm×短軸138cm×深さ45cmを測る。主軸方位はN-5°-E。平面形は不整形を呈する。北部でピットを確認した。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、7層に分層される。

〔時期〕 出土遺物は無いが、覆土の様子から縄文時代と考えられる。

第26号土坑土層解説 (26JD:A-A')

- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 黒色土 | ローム粒を少量含む。しまり普通。粘性弱い。 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。 |
| 4 褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり普通。粘性強い。 |
| 5 黒褐色土 | ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 6 褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。 |
| 7 褐色土 | ローム粒を中量含む。しまり・粘性普通。 |



第17図 第23号土坑出土遺物 (23 J D) (1/3)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	縄文土器 深鉢	—	—	(17.9)	黒褐色	長石 石英 小礫 砂粒	矢羽状文

※ () は現存の規格

第4表 第21号土坑 (21 J D) 出土土器観察表

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	縄文土器 深鉢	—	—	(5.5)	暗褐色	長石 石英 赤色粒子 白色粒子	櫛歯状工具による押引文 突起貼付
2	縄文土器 深鉢	—	—	(4.9)	黒色	長石 石英 小礫 砂粒	櫛歯状工具による押引文
3	縄文土器 深鉢	—	—	(4.8)	褐色	長石 石英 小礫 白色粒子	櫛歯状工具による押引文 内面二次焼成
4	縄文土器 深鉢	—	—	(3.5)	褐色	長石 石英 砂粒 黒雲母 白色粒子	櫛歯状工具による押引

※ () は現存の規格

第5表 第22号土坑 (22 J D) 出土土器観察表

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	縄文土器 深鉢	—	—	(5.5)	暗褐色	長石 石英 赤色粒子 白色粒子	櫛歯状工具による押引文 突起貼付
2	縄文土器 深鉢	—	—	(4.9)	黒色	長石 石英 小礫 砂粒	櫛歯状工具による押引文

※ () は現存の規格

第6表 第23号土坑 (23 J D) 出土土器観察表

No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
3	異形石器	3.3	4.3	0.5	6	チャート	—

第7表 第23号土坑 (23 J D) 出土石器観察表

第3節 平安時代の遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

第76号住居跡 (76 H) (第18図)

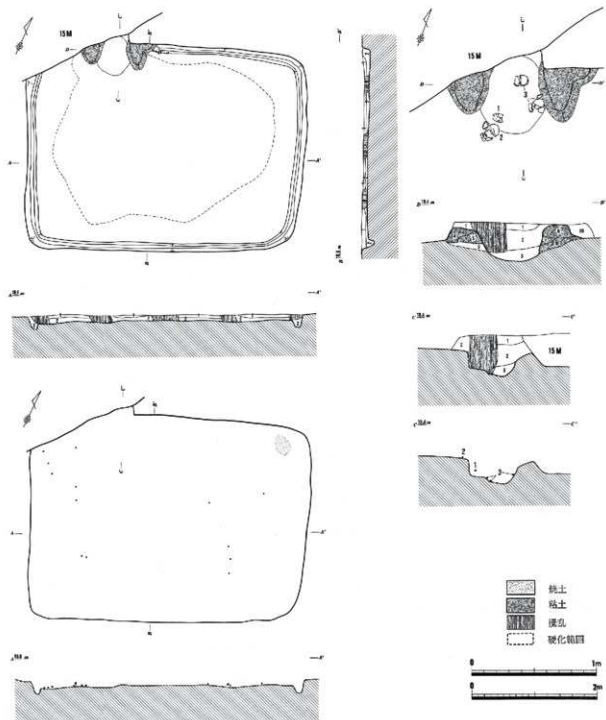
[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 隅丸方形 (規模) 長軸4.5m × 短軸3.3m。

(主軸方位) N-68°-E (壁高) 床面から8~12cmを測り、垂直に立ち上がる。(床) はほぼ平坦で、壁際及びコーナー部を除いて硬化範囲を確認した。(カマド) 北壁西部に付設されている。煙道部及び左袖

部を第15号溝に掘り込まれ、壊されている。確認できた規模は焚口部から第15号溝跡に壊されている部分まで61cmで、燃焼部幅は40cmである。左袖部は、ローム粒を含んだ第9層を積み上げて基部とし、その上に粘土粒を含んだ第4・5層を積み上げて構築している。右袖部は床面より11cm掘りくぼめた部分に粘土粒を含んだ第6~8層を積み上げて構築している。火床面は確認されなかった。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。各層にロームブロックが含まれていることから、人為



第18図 第76号住居跡 (76H) (1/30、1/60)

堆積と考えられる。

[遺物出土状況] 住居跡全体の覆土中層から下層にかけて出土している。3はカマド内から出土していることから、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

[時期] 9世紀後葉

[備考] 本跡は、第15号溝に掘り込まれている。

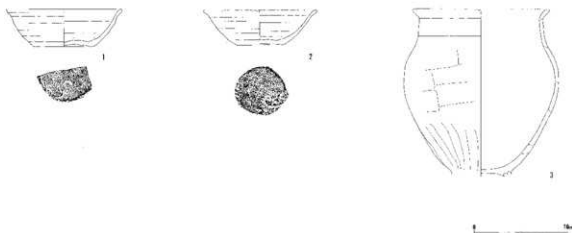
第76号住居跡土層解説 (76H: A-A', B-B')

- 1 黒褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。

第76号住居跡カマド土器解説 (76 H: C-C', D-D')

- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・粘土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 焼土ブロックを少量、粘土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 3 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・粘土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 ローム粒を少量、粘土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 5 褐色土 ロームブロック・粘土粒を中量、焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。

- 6 黒褐色土 粘土粒を多量、焼土ブロック・ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 7 黒褐色土 焼土ブロック・粘土粒を中量、ローム粒・炭化物を微量含む。しまり・粘性普通。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒・粘土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 9 褐色土 ローム粒を多量、焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 10 黒褐色土 粘土粒を多量、焼土ブロックを少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。



第19図 第76号住居跡出土遺物 (76 H) (1/4)

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 坏	12.2	6.4	4.0	灰色	長石 石英 小礫	外内面：口口成形成 底面：回転糸切り
2	須恵器 坏	12.0	5.0	3.8	灰色	長石 石英 白針状物質 小礫	外内面：口口成形成 底面：回転糸切り 南比金窯産
3	土師器 台付罌	14.5	-	(14.8)	橙色	長石 石英	外面：ヘラ削り 内面：ナデ

※ () は現存の規格

第8表 第76号住居跡 (76 H) 出土土器観察表

第77号住居跡 (77 H) (第20・21図)

[位置] 調査区南部

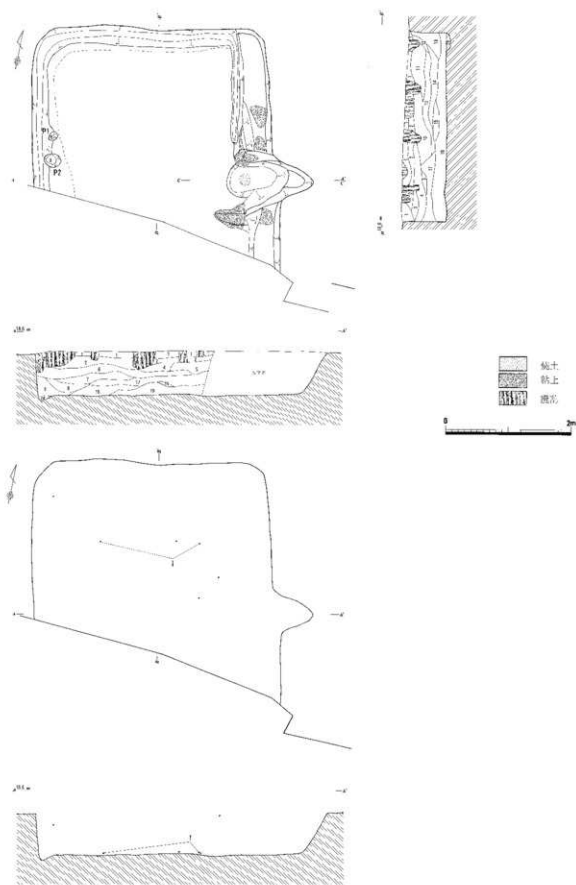
[構造] (平面形) 隅丸方形 (規模) 確認できた範囲で、長軸3.7m×短軸3.4m以上。東壁カマド両脇で、壁から外に約50cm、深さ約18cm程の掘り込みを確認した。地山掘り残しによる棚状施設と考えられる。また、棚部分の平坦部に、粘土を貼った範囲が3か所確認された。(主軸方位) N-11°-W (壁高) 床面から60~70cmを測り、垂直に立ち上がる。(床) 平坦で、壁際を除いて硬化範囲を確認した。(カマド) 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで138cmで、燃焼部幅は54cmである。袖部は、床面から20cmを掘りくぼめ、焼土ブロックやロームブロックを含んだ第21層を埋土し、

その上に焼土粒や粘土粒を含んだ第19層を積み上げて構築している。火床部も第21層を埋土して構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に109cm掘り込まれ、火床部から外傾している。(柱穴) P1・P2は出入り口施設に伴う柱穴で、深さそれぞれ6cm・8cmを測る。

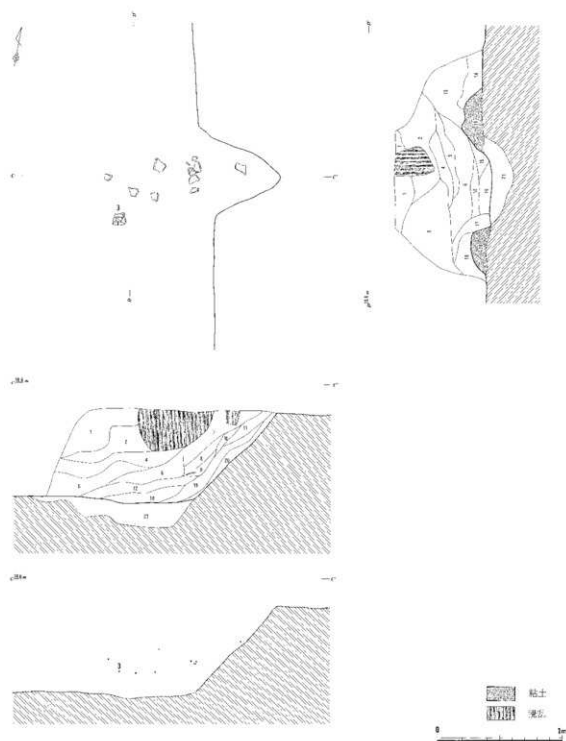
[覆土] 黒褐色土を基調とし、20層に分層される。多くの層にロームブロックが含まれていることから、人為堆積と考えられる。

[遺物出土状況] 住居跡中央部を中心に散在して出土している。1は人為堆積の覆土下層で出土し、3はカマド内から出土していることから、それぞれ住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

[時期] 9世紀中葉



第20図 第77号住居跡1 (77H) (1/60)



第21図 第77号住居跡2 (77H) (1/30)

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 坏	12.4	6.1	3.8	灰色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
2	須恵器 坏	13.5	5.7	3.9	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転ヘラ削り
3	須恵器 坏	13.4	7.7	4.1	灰白色	長石 石英	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り

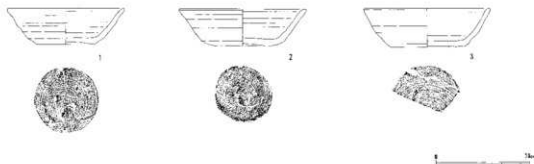
第9表 第77号住居跡 (77H) 出土土器観察表

第77号住居跡土層解説 (77H:A-A', B-B')

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを中量、炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 3 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。
- 5 黒褐色土 ロームブロック、粘土ブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。
- 6 黒褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを中量、炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 8 暗褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。
- 9 黒褐色土 ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 10 暗褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。
- 11 暗褐色土 ロームブロックを中量、炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 12 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 13 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 14 黒褐色土 ロームブロックを少量、焼土ブロックを微量含む。
しまり・粘性普通。
- 15 褐色土 ロームブロックを多量含む。しまり・粘性普通。
- 16 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。しまり・粘性普通。
- 17 黒褐色土 ロームブロック、粘土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 18 暗褐色土 ロームブロック、焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 19 暗褐色土 ロームブロックを中量、粘土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 20 暗褐色土 ロームブロックを中量、粘土ブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。

第77号住居跡カマド土層解説 (77H:C-C', D-D')

- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・粘土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロック・焼土粒・粘土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 3 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 粘土ブロック・焼土ブロックを中量、ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 5 黒褐色土 ローム粒・焼土ブロック・粘土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 6 黒褐色土 粘土ブロックを中量、ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 7 灰白色土 粘土粒を多量、焼土ブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。
- 8 褐色土 粘土粒を多量、ローム粒を中量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 9 灰白色土 粘土粒を中量、焼土ブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。
- 10 灰白色土 粘土粒を多量、焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 11 褐色土 ローム粒・焼土ブロックを中量含む。
しまり・粘性普通。
- 12 灰白色土 粘土粒を多量、ローム粒・焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 13 暗褐色土 粘土粒を中量、ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 14 灰白色土 粘土粒を多量、焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 15 赤褐色土 焼土ブロックを中量、ローム粒・粘土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 16 黒色土 ロームブロック・焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 17 灰白色土 粘土粒を多量、焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 18 褐色土 ローム粒を多量、粘土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 19 赤褐色土 焼土粒を多量、炭化粒・粘土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 20 赤褐色土 焼土粒を中量、ロームブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。
- 21 黒褐色土 焼土ブロックを中量、ロームブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。



第22図 第77号住居跡出土遺物 (77H) (1/4)

第78号住居跡(78H)(第23・24図)

[位置] 調査区東部

[構造] (平面形) 隅丸長方形(規模) 長軸4.8m以上×短軸3.8m。(主軸方位) N-14°-W(壁高) 床面から49～57cmを測り、やや外傾して立ち上がる。(床) 凹凸があり、壁際及びコーナ部を除いて硬化範囲を確認した。(カマド) カマドは北壁に2か所確認され、西から順にカマド1、カマド2とした。カマド1は北壁西部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで143cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は、粘土粒を含んだ第9層を積み上げて構築している。火床面は火熱を受けて、赤変硬化している。煙道部は壁外に76cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。カマド2は北壁東部に付設されている。天井部が残ったままの状態を確認された。規模は焚口部から煙道部まで176cmで、燃焼部幅は

55cmである。火床部は、第13層を埋土して構築され、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。また、火床部で29の土師器の甕が逆位で掘えられていた。煙道部は壁外に105cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。(柱穴) 確認された主柱穴はP1で、深さ17cmを測る。P2は出入り口施設に伴う柱穴で、深さ42cmを測る。P3～P10は性格不明の柱穴で、深さ6～26cmを測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、10層に分層される。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、人為堆積と考えられる。また、第9層は壁の崩れである。

[遺物出土状況] 住居跡全体の覆土中層から下層にかけて出土している。人為堆積土中から出土していることから、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

[時期] 10世紀前半

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 坏	17.1	7.5	7.4	灰白色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
2	須恵器 坏	15.0	7.0	5.7	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
3	須恵器 坏	13.8	6.6	6.7	褐色	長石 石英 小礫 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
4	須恵器 坏	13.1	6.3	5.6	褐色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
5	須恵器 坏	13.0	6.9	4.5	灰色	長石 石英 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
6	須恵器 坏	12.7	5.2	3.6	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
7	須恵器 坏	12.6	3.7	6.4	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
8	須恵器 坏	12.5	3.8	6.1	灰色	長石 石英 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
9	須恵器 坏	12.2	4.3	5.7	灰白色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
10	須恵器 坏	12.2	5.5	3.6	灰色	長石 石英 小礫 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
11	須恵器 坏	12.0	5.4	4.0	灰色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
12	須恵器 坏	11.7	5.6	3.5	灰色	長石 石英 小礫 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
13	須恵器 坏	14.4	—	(29)	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形
14	須恵器 坏	—	7.4	(13)	灰白色	長石 石英 小礫 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
15	須恵器 坏	—	6.6	(17)	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
16	須恵器 坏	—	6.6	(19)	橙色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
17	須恵器 坏	—	6.4	(26)	赤褐色	長石 石英 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
18	須恵器 坏	—	6.1	(23)	灰色	長石 石英 小礫 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り

第10表 第78号住居跡(78H)出土土器観察表1

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
19	須恵器 坏	—	6.2	(12)	灰色	長石 石英 砂粒	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
20	須恵器 坏	—	6.1	(10)	橙色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
21	須恵器 坏	—	5.8	(12)	橙色	長石 石英 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
22	須恵器 高台付坏	—	6.9	(14)	灰色	長石 石英 針状物質 小礫	底面：回転糸切り 高台貼付 南北全産産
23	須恵器 高台付皿	13.8	6.7	2.5	黒褐色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り 高台貼付 内面：自然釉降灰
24	須恵器 鉢	17.6	7.5	9.4	灰白色	長石 石英 砂粒	外内面：ロクロ成形 外面：体部下端へう割り 底面：回転糸切り 高台貼付
25	土師器 台付甕	—	9.1	(31)	橙色	長石 石英 白色粒子	外内面：ナデ
26	土師器 台付甕	—	8.9	(37)	橙色	長石 石英	外内面：ナデ
27	土師器 甕	19.4	—	(49)	橙色	長石 石英 小礫	外面：へう割り 内面：ナデ
28	土師器 甕	20.8	—	(20.6)	橙色	長石 石英 角閃石 砂粒	外面：へう割り 内面：へうナデ
29	土師器 甕	18.5	4.7	25.8	橙色	長石 石英 小礫 角閃石 砂粒	外面：へう割り 内面：へうナデ

※ () は現存の規格

第11表 第78号住居跡(78H)出土土器観察表2

第78号住居跡土層解説(78H:A-A', B-B')

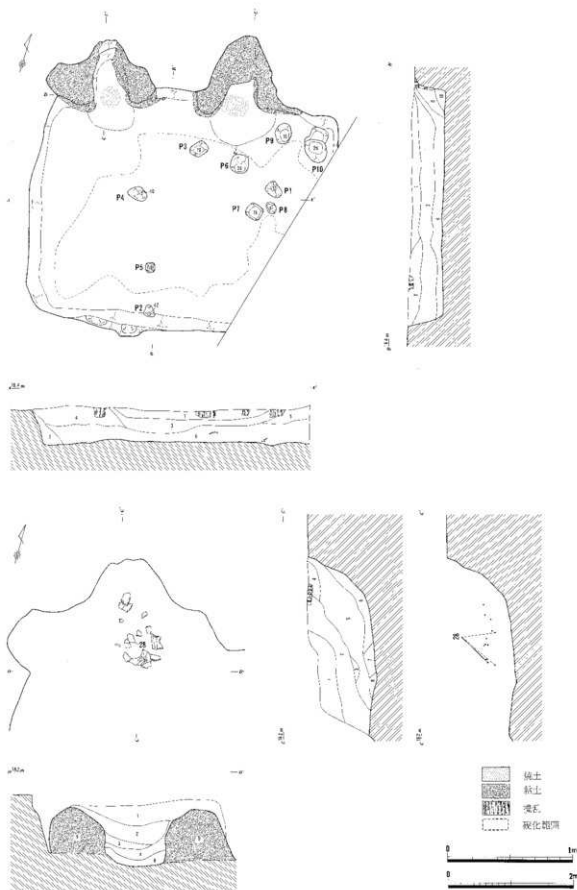
- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土ブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 焼土ブロックを中量、ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 5 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 6 黒褐色土 焼土ブロックを中量、ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 8 暗褐色土 ローム粒を中量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 9 褐色土 ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。
- 10 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を中量、炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。

第78号住居跡カマド2土層解説(78H:E-E')

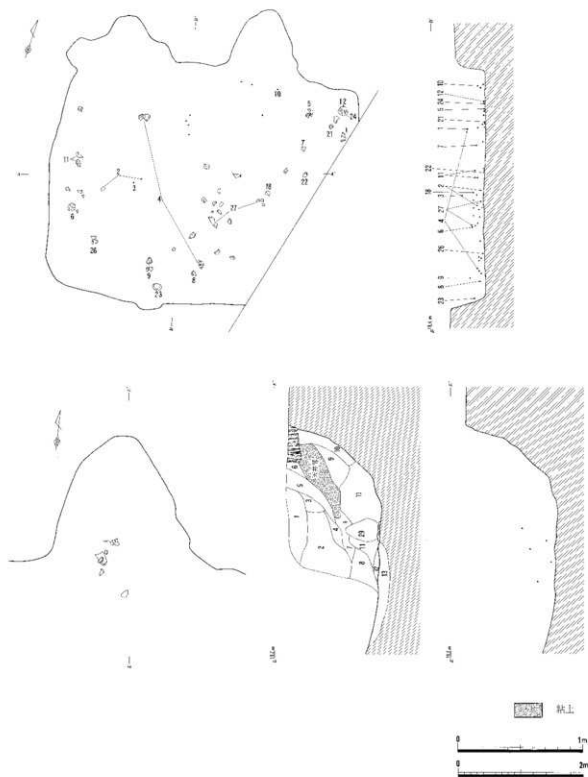
- 1 黒褐色土 焼土ブロックを少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック・粘土ブロックを少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 3 黒褐色土 粘土粒を少量、焼土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを中量、焼土ブロック・粘土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを少量、粘土粒を微量含む。しまり・粘性普通。

第78号住居跡カマド1土層解説(78H:C-C', D-D')

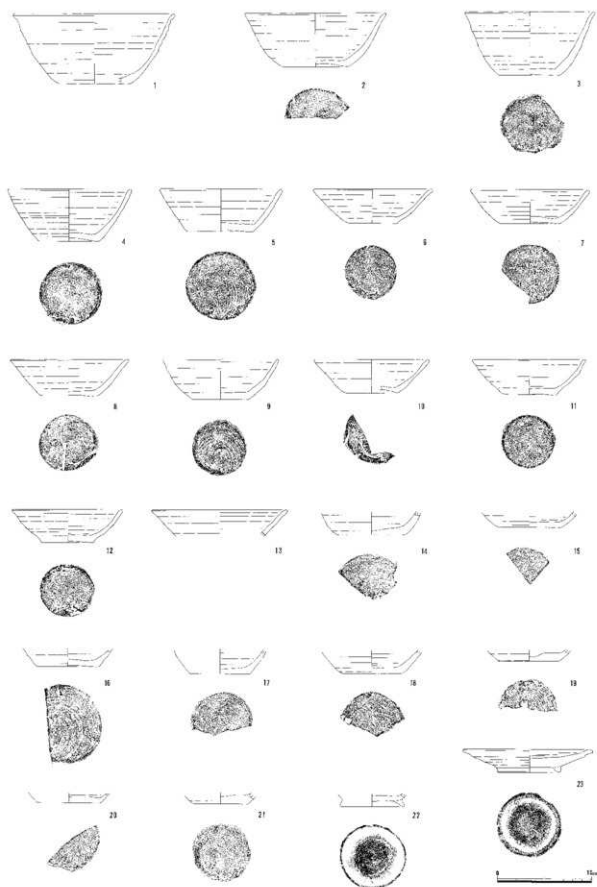
- 1 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒を少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 2 暗褐色土 粘土ブロックを中量、ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 3 灰白色土 粘土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 赤褐色土 焼土ブロックを多量、粘土粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 5 黒褐色土 焼土ブロックを中量、粘土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 6 黒褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 7 赤褐色土 焼土粒を多量、炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 8 黒褐色土 焼土ブロックを少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 9 灰白色土 粘土粒を多量含む。しまり・粘性強い。
- 6 暗褐色土 ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 7 暗褐色土 粘土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 8 褐色土 ロームブロック・焼土ブロックを少量、粘土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 9 暗褐色土 ローム粒・焼土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 10 黒褐色土 粘土ブロックを少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 11 黒褐色土 焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 12 赤褐色土 焼土粒を多量含む。しまり・粘性弱い。
- 13 暗褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。



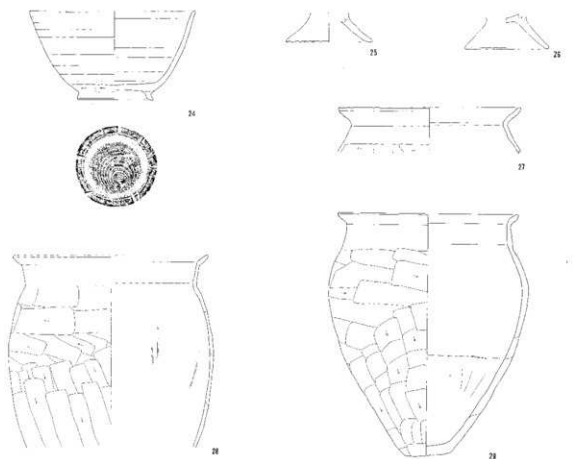
第23図 第78号住居跡1 (78H) (1/30、1/60)



第24図 第78号住居跡2 (78 H) (1/30、1/60)



第25図 第78号住居跡出土遺物 (78H) (1/4)



第26図 第78号住居跡出土遺物2 (78H) (1/4)

第79号住居跡 (79H) (第28・29図)

[位置] 調査区東部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 長軸4.3m×短軸3.3m。(主軸方位) N-88°-E (壁高) 床面から21~30cmを測り、やや垂直に立ち上がる。(床) やや平坦で、北壁際及び南壁際を除いて硬化範囲を確認した。(カマド) カマドは東壁に2か所確認され、北から順にカマド1、カマド2とした。カマド1は東壁北部に付設されている。焚口部を壊すようにして壁溝が確認され、カマド2の焚口部で壁溝が確認されないことから、カマド1が使用されなくなった後もカマド2が使われていたものと考えられ、それに伴いカマド1の焚口部に壁溝が掘り込まれたものと考えられる。カマド1の規模は、確認できた範囲で焚口部から煙道部まで69cmで、燃焼部幅は50cmである。火床部での赤変硬化面は確認できなかった。また、火床部で土製の支脚が縦に並ぶようにして2か所掘えられており、火床部奥側の支脚には5の土師器甕が伏せられていた。煙道部は壁外

に54cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。カマド2は東壁南部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで100cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は確認されなかったものの、左袖部分に基部と思われる地山掘り残しによる張り出し部が確認された。火床面は火熱を受けて、赤変硬化している。煙道部は壁外に48cm掘り込まれ、火床部から外傾している。(柱穴) 確認された主柱穴はP1~P3で、深さ22~35cmを測る。P4~P6は壁柱穴と考えられ、深さは13~25cmを測る。P7~P9は性格不明の柱穴で、深さ10~20cmを測る。

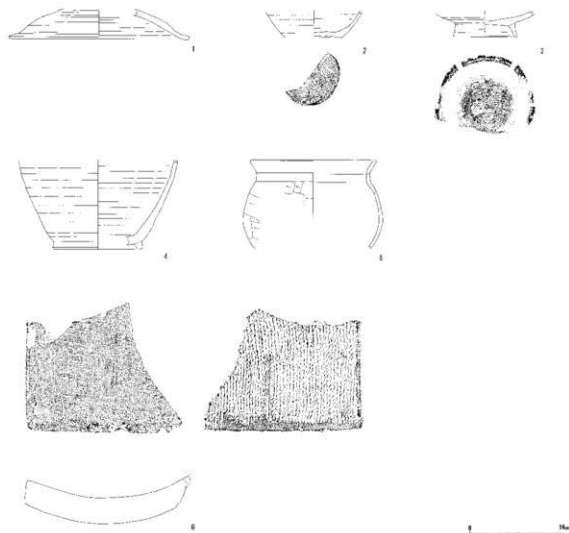
[覆土] 黒褐色土を基調とし、11層に分層される。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、人為堆積と考えられる。

[遺物出土状況] 住居跡南部の覆土上層から中層にかけて出土している。1・2・6は人為堆積土中から出土していることから、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。5はカマド内から出土していることから、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられ

る。また、住居跡西半部で、炭化材や焼土塊が検出された。

〔時期〕 9世紀後葉

〔備考〕 炭化材や焼土塊が検出され、床面や壁面が焼けていないことから、住居廃絶時に土器や平瓦とともに炭化材や焼土塊を廃棄したものと考えられる。



第27図 第79号住居跡出土遺物（79H）（1/4）

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 环蓋	19.1	-	(32)	灰色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形
2	須恵器 环	-	6.0	(28)	灰色	長石 石英 白針状物質 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り 南北金剛産
3	須恵器 高台付环	-	6.7	(27)	灰白色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り 高台貼付
4	須恵器 壺	-	9.5	(94)	灰色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 高台貼付
5	土師器 小形甕	13.4	-	(95)	黒褐色	長石 石英	外面：ヘラ開り 内面：ナデ

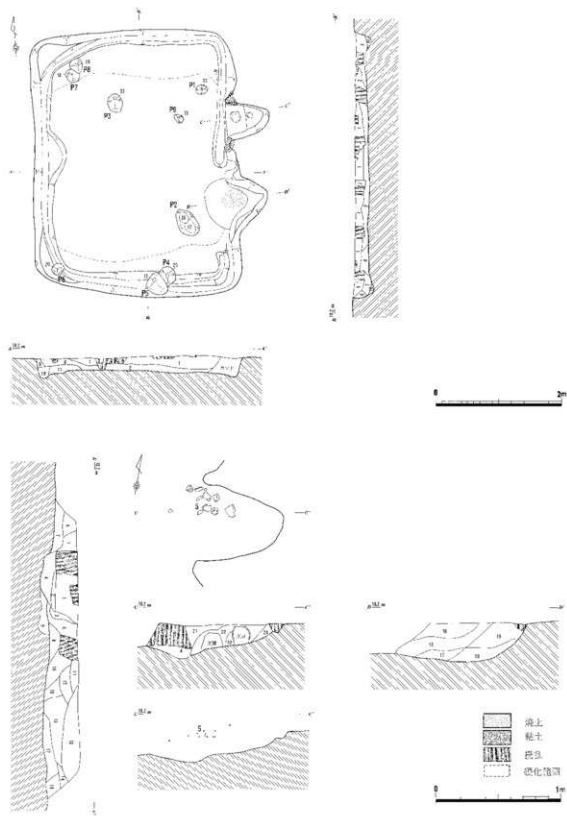
※ () は現存の規格

第12表 第79号住居跡（79H）出土土器観察表

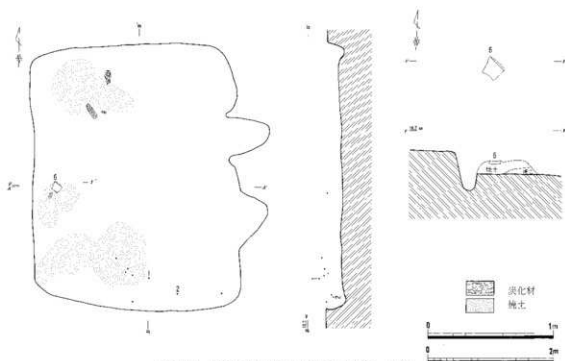
No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	備考
6	平瓦	(14.0)	(17.4)	28	灰色	長石 石英 砂粒 白色粒子	縄目叩き目 布目

※ () は現存の規格

第13表 第79号住居跡（79H）出土瓦観察表



第28图 第79号住居跡1 (79H) (1/30、1/60)



第29図 第79号住居跡2 (79H) (1/30、1/60)

第79号住居跡土層解説 (79H: A-A', B-B')

- 1 黒褐色土 焼土ブロックを中量、ロームブロック・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを中量、焼土ブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを中量、焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 焼土ブロックを多量、ローム粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 5 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。

- 6 褐色土 ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 8 暗褐色土 焼土ブロックを中量、ロームブロック・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 9 暗褐色土 ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 10 暗褐色土 ロームブロックを微量含む。しまり・粘性普通。
- 11 赤褐色土 焼土粒を多量含む。しまり・粘性普通。

第79号住居跡カマドI・2土層解説 (79HC-C', D-D', E-E')

- 1 黒褐色土 ロームブロックを中量、焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ローム粒・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 3 褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを少量、焼土粒・炭化粒・粘土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 5 暗褐色土 ローム粒・焼土ブロック・炭化粒・粘土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 6 褐色土 粘土ブロックを中量、ロームブロック・焼土ブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量、粘土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 8 褐色土 ロームブロックを多量、粘土ブロックを微量含む。しまり・粘性普通。
- 9 暗褐色土 ロームブロックを多量、炭化物を少量、焼土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 10 黒褐色土 ロームブロックを少量、焼土粒・粘土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 11 黒褐色土 ロームブロック・粘土ブロックを中量含む。しまり・粘性普通。
- 12 黒褐色土 焼土ブロック・粘土粒を少量、ローム粒・炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。

- 13 黒褐色土 粘土ブロックを中量、焼土ブロック・炭化粒を少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 14 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 15 暗褐色土 粘土粒を中量、ローム粒・焼土ブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 16 黒褐色土 粘土粒を中量、ロームブロック・焼土ブロックを少量、炭化物を微量含む。しまり・粘性普通。
- 17 褐色土 ローム粒を多量、粘土ブロックを中量、焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 18 暗褐色土 ローム粒を中量、焼土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 19 褐色土 焼土ブロック・粘土粒を中量、炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 20 褐色土 焼土ブロック・粘土ブロックを中量、炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 21 黒褐色土 粘土粒を少量、ローム粒・焼土粒・炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 22 褐色土 焼土ブロック・粘土ブロックを中量、ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 23 灰白色土 粘土ブロックを多量含む。しまり・粘性強い。
- 24 褐色土 ローム粒を中量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。

第80号住居跡(80H)(第31・32図)

[位置] 調査区南東部

[構造] (平面形) 隅丸長方形(規模)長軸4.7m×短軸3.7m。(主軸方位) N-77°-E (壁高) 床面から23~33cmを測り、垂直に立ち上がる。(床) やや平坦で、カマドから中央部にかけて硬化範囲を確認した。(カマド) 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで75cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は、左袖部が僅かに確認された。火床面は火熱を受けて、赤変硬化している。煙道部は壁外に69cm掘り込まれ、火床部から外傾している。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、8層に分層される。各層にロームブロック含まれ、不自然な堆積状況であることから、人為堆積と考えられる。第9・10層は、掘方への埋土と考えられる。

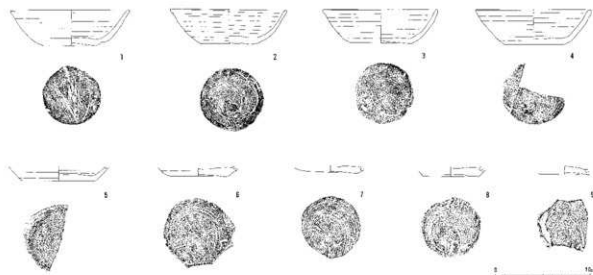
[遺物出土状況] 住居跡全体に散在して出土している。人為堆積土中から出土していることから、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。4・5はカマド中から出土していることから、住居廃絶時に廃棄されたものと考えられる。

[時期] 9世紀前半

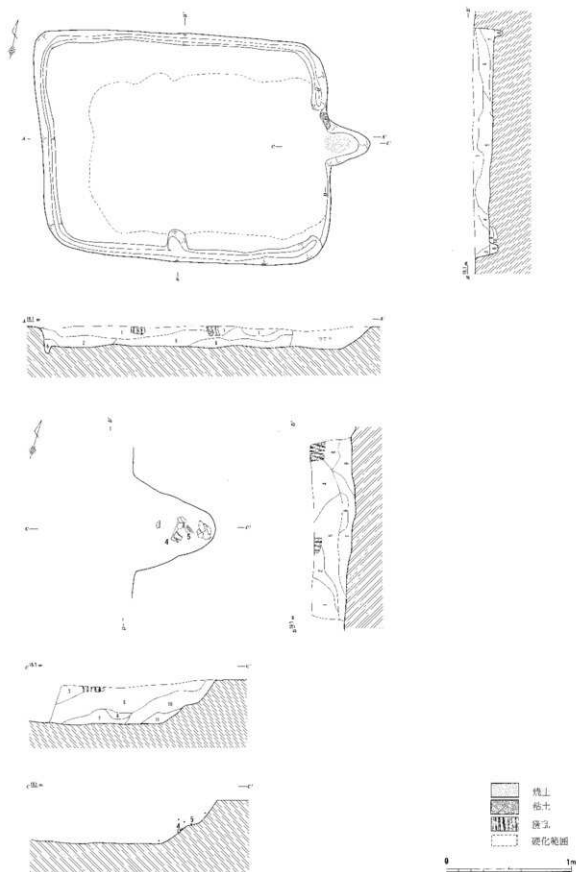
No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 坏	126	56	38	灰色	長石 石英 白針状物質 小礫	外内面: ロクロ成形 底面: 回転系切り後、一方向に ヘラ削り 南比金窯産
2	須恵器 坏	124	62	37	灰色	長石 石英 白針状物質	外内面: ロクロ成形 底面: 回転系切り 南比金窯産
3	須恵器 坏	122	60	36	灰色	長石 石英 白針状物質 小礫	外内面: ロクロ成形 底面: 回転系切り 南比金窯産
4	須恵器 坏	123	62	38	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面: ロクロ成形 底面: 回転系切り
5	須恵器 坏	—	7.7	(15)	橙色	長石 石英 小礫	外内面: ロクロ成形 底面: 回転系切り
6	須恵器 坏	—	6.5	(10)	橙色	長石 石英 小礫 砂粒	外内面: ロクロ成形 底面: 回転系切り ヘラ記号「×」
7	須恵器 坏	—	5.7	(0.7)	黒褐色	長石 石英 小礫 白色粒子	底面: 回転系切り
8	須恵器 坏	—	5.9	(10)	灰色	長石 石英 白針状物質	外内面: ロクロ成形 底面: 回転系切り 南比金窯産
9	須恵器 坏	—	5.3	(0.8)	黄褐色	長石 石英 砂粒	底面: 回転系切り 二次焼成

※ () は現存の規格

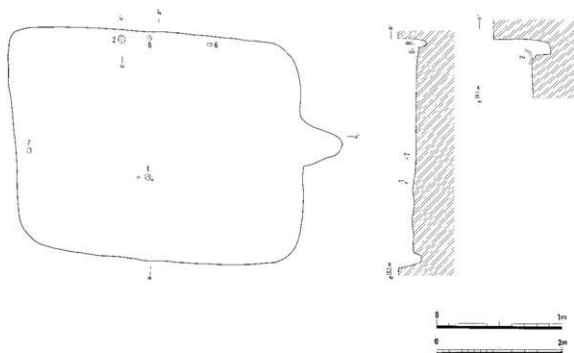
第14表 第80号住居跡(80H)出土土器観察表



第30図 第80号住居跡出土遺物(80H)(1/4)



第31図 第80号住居跡1 (80 H) (1/30、1/60)



第32図 第80号住居跡2 (80H) (1/30、1/60)

第80号住居跡土層解説 (80H: A-A', B-B')

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ロームブロックを中量、焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 6 暗褐色土 | ロームブロックを中量、焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 2 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 7 暗褐色土 | ロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 3 褐色土 | ロームブロックを多量含む。しまり・粘性普通。 | 8 褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。 |
| 4 黒褐色土 | ロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 9 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 5 褐色土 | ロームブロックを中量、焼土粒・炭化物を微量 | 10 褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。 |

第80号住居跡カマド土層解説 (80H: C-C', D-D')

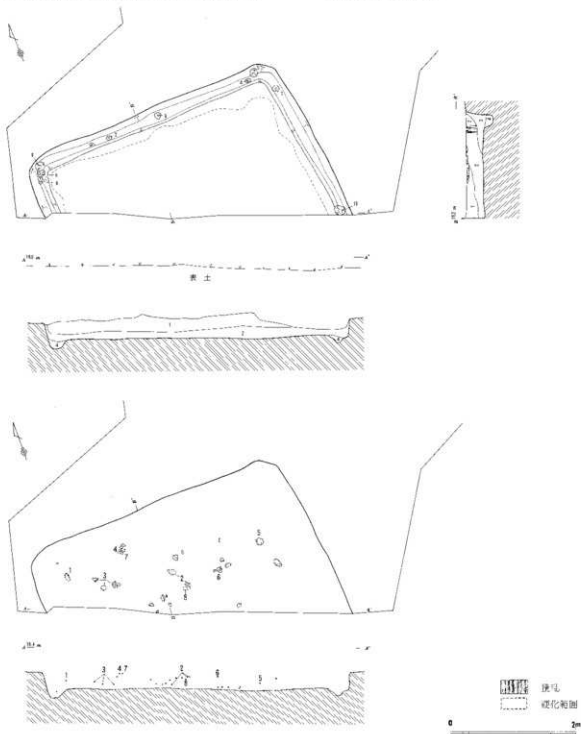
- | | | | |
|--------|---|---------|---|
| 1 黒褐色土 | 粘土ブロックを多量、ロームブロックを少量、
炭化物を微量含む。しまり・粘性普通。 | 7 暗褐色土 | 焼土ブロックを多量、粘土ブロックを中量、炭
化物を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 暗褐色土 | 粘土ブロックを多量、焼土粒を中量、ローム粒
を少量含む。しまり・粘性普通。 | 8 暗褐色土 | ロームブロック・粘土ブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロックを中量、粘土粒を多量含む。
しまり・粘性普通。 | 9 暗褐色土 | ロームブロックを中量、粘土粒を少量、焼土粒
を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒・粘土ブロックを中量、ローム粒・炭化
物を少量含む。しまり・粘性普通。 | 10 暗褐色土 | 粘土ブロック・焼土ブロックを多量、ローム粒
を中量、炭化物を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 5 暗褐色土 | 粘土ブロックを多量、ロームブロックを中量、
焼土粒・炭化物を微量含む。しまり・粘性普通。 | 11 褐色土 | 焼土粒・ローム粒を中量含む。しまり・粘性普通。 |
| 6 暗褐色土 | 粘土ブロック・焼土ブロックを中量含む。 | | |

第81号住居跡 (81H) (第33図)

[位置] 調査区南部

[構造] (平面形) 隅丸長方形か(規模) 確認できた範囲で長軸4.4m×短軸2.7m以上。(主軸方位) N-

2°-W (壁高) 床面から29-37cmを測り、やや垂直に立ち上がる。(床) 平坦で、壁際及びコーナー部を除いて硬化範囲を確認した。(柱穴) 壁溝内に壁柱穴が確認された。



第33図 第81号住居跡 (81H) (1/60)

第81号住居跡土層解説 (81H: A-A', B-B')

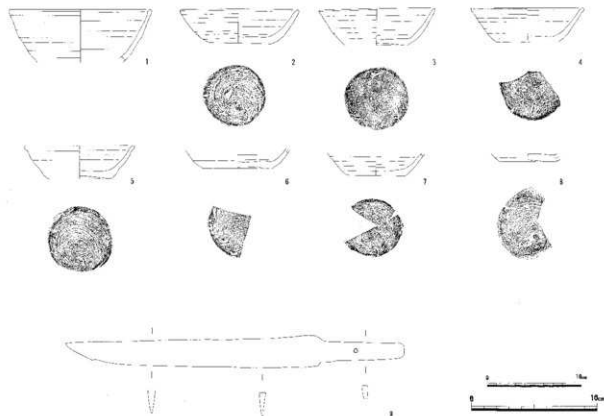
- 1 黒褐色土 焼土ブロックを少量、ローム粒を微量含む。
 2 黒褐色土 ロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。

- 3 黒褐色土 ロームブロックを少量、焼土粒・炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
 4 暗褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。

〔覆土〕黒褐色土を基調とし、4層に分層される。第1～3層は各層にロームブロックや焼土ブロックが含まれるが、周囲から流入した堆積状況であることから、自然堆積と考えられる。第4層はロームブロックを中量含んでいることから、人為堆積である。

〔遺物出土状況〕住居跡全体の覆土上層から下層にかけて出土している。遺物の大半は、自然堆積土中から出土しており、住居廃絶後の窪地に廃棄されたものと考えられる。

〔時期〕9世紀前葉



第34図 第81号住居跡出土遺物 (81H) (1/3、1/4)

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 坏	15.2	—	(5.6)	灰色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形
2	須恵器 坏	12.6	6.7	3.8	灰色	長石 石英 白針状物質 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り 南比金窯産
3	須恵器 坏	12.3	6.6	3.9	灰色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
4	須恵器 坏	12.0	6.7	3.6	灰色	長石 石英 白針状物質	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り 南比金窯産
5	須恵器 坏	11.6	6.8	3.5	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
6	須恵器 坏	—	7.3	(2.1)	灰色	長石 石英 白色粒子 黒色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
7	須恵器 坏	—	6.0	(2.4)	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
8	須恵器 坏	—	5.9	(0.8)	灰色	長石 石英 砂粒 白色粒子	底面：回転糸切り

※ () は現存の規格

第15表 第81号住居跡 (81H) 出土土器観察表

No	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
9	刀子	26.9	2.6	0.6	95	鉄	断面逆三角形 柄部に穴

第16表 第81号住居跡 (81H) 出土鉄製品観察表

2. 溝跡

第15号溝跡 (15M) (第35図)

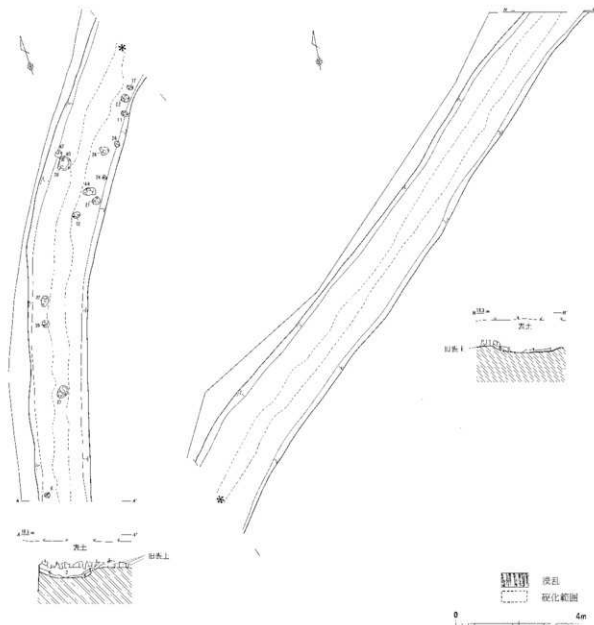
[位置] 調査区西部

[構造] (開口部幅) 2.3~1.5m (壁高) 底部から31cm

を測り、緩やかに立ち上がる。(底部) やや平坦で、

幅60cm程の硬化した範囲が確認された。また、底面や壁面にピットが確認された。本跡南部の調査区外部分については、平成6年に調査済みで、富士見市文化財報告第47集にて報告済みである。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、5層に分層される。第



第35図 第15号溝跡 (15M) (1/120)

第15号溝跡土層解説 (15M: A-A', B-B')

- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土 | 炭化粒を少量、ローム粒・焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 3 黒褐色土 | ローム粒を少量含む、しまり・粘性普通。 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 4 暗褐色土 | ロームブロックを多量、炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| | | 5 暗褐色土 | 焼土ブロックを中量、ローム粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |

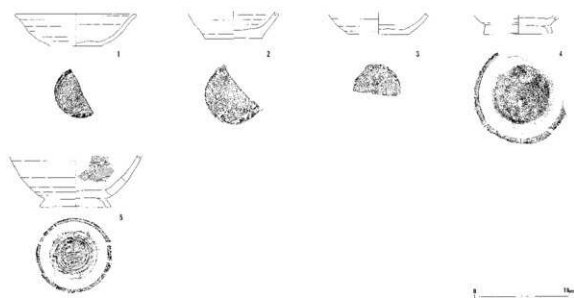
1～3層は周囲から流入している堆積状況であることから、自然堆積と考えられる。第4・5層は各層にロームブロックや焼土ブロックを中量以上含んでいることから、人為堆積と考えられる。

〔遺物出土状況〕 須恵器片や土師器片が、覆土中から

散在して出土している。

〔時期〕 9世紀後半～10世紀初頭

〔備考〕 底部に硬化範囲が確認されることから、溝としての機能のほかに、道路としての機能があった可能性がある。



第36図 第15号溝跡出土遺物（15M）（1/4）

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 坏	12.9	5.5	3.4	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
2	須恵器 坏	—	6.1	(29)	灰色	長石 石英 小礫	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
3	須恵器 坏	—	6.3	(23)	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り
4	須恵器 高台付坏	—	7.3	(20)	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転系切り後、 外周ヘラ削り 高台貼付
5	土師器 高台付坏	—	7.5	(55)	橙色	長石 石英 白色粒子	外内面：ロクロ成形 内面：黒色処理（ヘラ磨き） 底面：回転系切り 高台貼付

※（ ）は現存の規格

第17表 第15号溝跡（15M）出土土器観察表

第4節 その他の遺構と遺物

1. 掘立柱建物跡

第4号掘立柱建物跡（第37・38図）

〔位置〕（規模）桁行4間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向はN-16°-Eの東西棟である。桁行5.5m、梁行3.2mで、面積は17.6㎡を測る。柱間寸法は桁行が西妻から1.6m（53尺）、1.3m（43尺）、1.3m（43尺）、1.3m（43尺）で、梁行は南平から1.2m（4尺）、1.1m（37尺）、0.9m（3尺）で配置され、

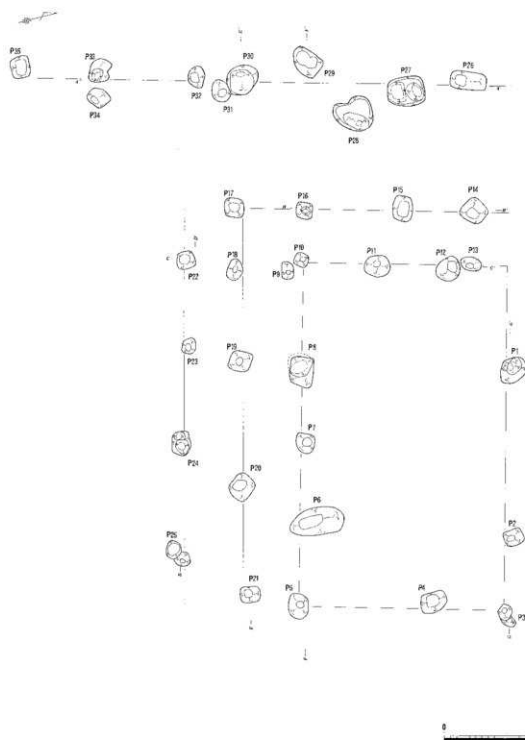
ばらつきがあるが柱筋はおおよそ揃っている。P1からP13の間に1か所、P1からP2の間に1か所、P4からP5の間に1か所にそれぞれ柱穴は確認できなかった。南平から南に0.9m、西妻から0.8m離れてL字形の柱穴列を確認した。この柱穴列の柱間寸法は、北から南1.1m（37尺）、1.5m（5尺）、1.0m（33尺）、西から東に1.0m（33尺）、1.4m（4尺）、2.0m（67尺）、1.7m（57尺）で配置されている。その位置から建物の西側と南側の庇と考えられる。さらに南に0.9m離れて東西軸の柱穴列が

確認された。西から東に1.4m (4.7尺)、1.5m (5尺)、1.9m (6.3尺)で配置され、身舎柱穴から離れた位置であることから横列と考えられる。また、西表から西に2.0m離れて南北軸の柱穴列が確認され、柱間寸法は北から南に1.0m (3.3尺)、1.5m (5尺)、1.7m (5.7尺)、1.6m (5.3尺)、1.2m (4

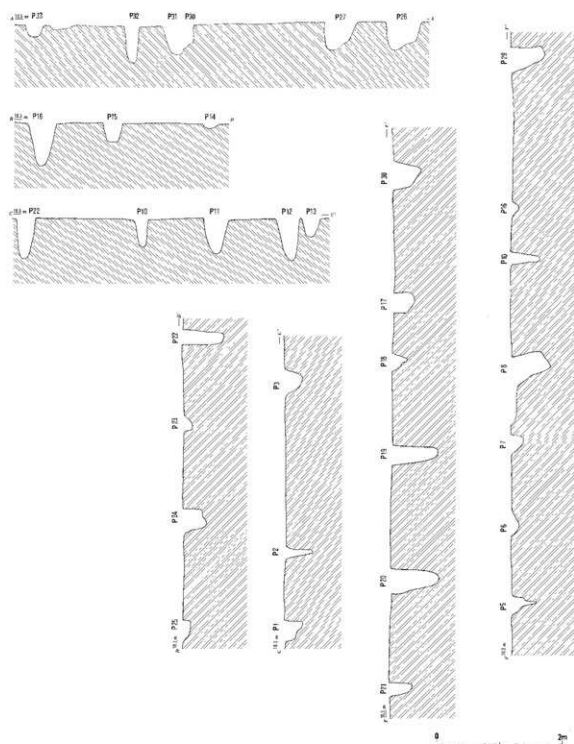
尺)で配置されている。身舎柱穴から離れた位置であることから、横列と考えられる。

〔遺物出土状況〕 須恵器片が柱穴内から出土しているが、小片の為に図化は出来なかった。

〔時期〕 時期不明



第37図 第4号掘立柱建物跡1 (1/60)



第38図 第4号掘立柱建物跡2 (1/60)

2. 土坑

第107号土坑 (107HD) (第39図)

〔位置〕 調査区西部

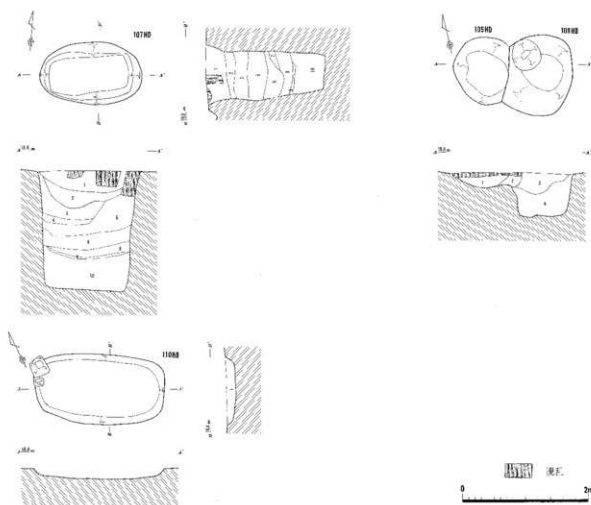
〔構造〕 規模は長軸161cm×短軸100cm×深さ192cmを測る。主軸方位はN-87°-E。平面形は遺構確認面

で楕円形、底面で長方形を呈し、底面は平坦である。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、10層に分別される。

〔遺物出土状況〕 出土遺物なし

〔時期〕 時期不明



第39図 第107～110号土坑 (107～110 H D) (1/60)

第107号土坑土層解説 (107 H D: A-A', B-B')

- 1 黒褐色土 炭化粒を多量、ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 5 暗褐色土 ローム粒を中量含む。しまり・粘性普通。
- 6 褐色土 ロームブロックを多量含む。しまり・粘性普通。
- 7 褐色土 ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。
- 8 黒褐色土 ローム粒・機土粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 9 黒褐色土 ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 10 褐色土 ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。

第108号土坑・第109号土坑土層解説 (108 H D・109 H D: A-A')

- 1 黒褐色土 ロームブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。
- 4 褐色土 ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。

第110号土坑土層解説 (110 H D: A-A')

- 1 黒褐色土 ローム粒を少量含む。しまり普通。粘性弱い。

第108号土坑・第109号土坑

(108 H D・109 H D) (第39図)

[位置] 調査区東部

[構造] 第108号土坑 (108 H D) の規模は長径138cm×短径113cm×深さ72cmを測る。主軸方位はN-6°-E。平面形は楕円形を呈する。第109号土坑 (109 H D) の規模は長径110cm×短径93cm×深さ25cmを測る。主軸方位はN-12°-W。平面形は楕

円形を呈する。

[覆土] 第108号土坑は暗褐色土を基調とし、2層に分層され、第109号土坑は黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

[遺物出土状況] 縄文土器片が、覆土中から出土している。

[時期] 時期不明

[備考] 第108号土坑は、第109号土坑に掘り込まれている。

第110号土坑 (110HD) (第39図)

[位置] 調査区南東部

[構造] 規模は長軸204cm×短軸110cm×深さ15cmを測る。主軸方位はN-64°-W。平面形は隅丸方形を呈し、底面は平坦である。また、北西部でピット

を確認した。

[覆土] 黒褐色土を基調とした単一層である。

[遺物出土状況] 須恵器片や土師器片が覆土中から散在して出土している。

[時期] 時期不明

3. 柱穴列

第1号柱穴列 (第40図)

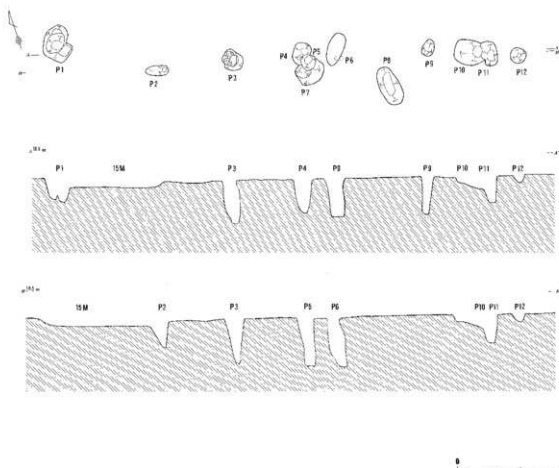
[位置] 調査区北部

[構造] 柱穴を12か所確認した。柱穴の平面形は隅丸方形や楕円形で、長軸 (径) 24~64cm、短軸 (径)

15~45cmを測る。深さは12~77cmを測る。

[遺物出土状況] 縄文土器片や須恵器片が、柱穴内から出土している。

[時期] 時期不明



第40図 第1号柱穴列 (1/60)

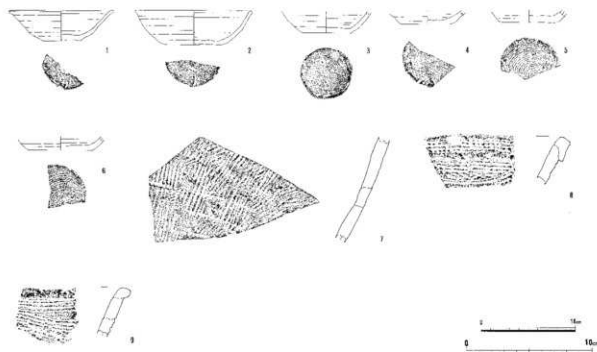
No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 坏	11.1	3.4	3.3	灰色	長石 石英 小礫 白色粒子	外内面：口クロ成形 底面：回転糸切り
2	須恵器 坏	12.4	6.0	3.7	灰色	長石 石英 白針状物質 小礫	外内面：口クロ成形 底面：回転糸切り 南比企産

第18表 遺構外出土土器観察表1

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
3	須恵器 坏	—	5.1	(23)	灰色	長石 小礫 石英 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
4	須恵器 坏	—	5.5	(14)	灰色	長石 小礫 石英 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
5	須恵器 坏	—	5.9	(13)	灰白色	長石 砂粒 石英	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
6	須恵器 坏	—	6.9	(15)	赤褐色	長石 小礫 石英 白色粒子	外内面：ロクロ成形 底面：回転糸切り
7	須恵器 甕	—	—	(84)	灰色	長石 小礫 砂粒 石英	外面：平行叩き目
8	縄文土器 深鉢	—	—	(38)	橙色	長石 黒雲母 石英 小礫 砂粒	貝殻による押引文
9	縄文土器 深鉢	—	—	(39)	橙色	長石 砂粒 石英	櫛歯状工具による押引文

※ () は現存の規格

第19表 遺構外出土土器観察表2



第41図 遺構外出土遺物1 (1/3、1/4)

No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
10	打製石斧	11.8	5.1	2.5	140	砂岩※	—
11	敲石	10.9	9.0	7.0	915	花崗岩※	凹部1か所 敲打痕1か所
12	敲石	11.7	7.7	2.8	445	砂岩※	敲打痕1か所

第20表 遺構外出土土器観察表



第42図 遺構外出土遺物2 (1/3)

No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
13	砥石	6.6	4.4	3.9	95	凝灰岩*	砥面5面 砥面1面に被熱痕・穿孔
14	砥石	4.8	4.6	2.4	76	凝灰岩*	砥面4面
15	鉄滓	6.9	8.3	4.9	130	鉄	—

第21表 遺構外出土石器・鍛冶関連遺物観察表

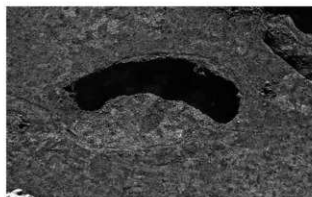
写真図版 1 大谷遺跡第5地点



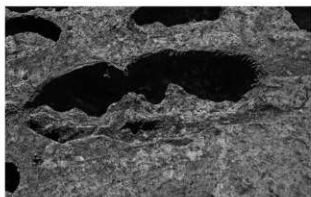
〔1〕調査前風景



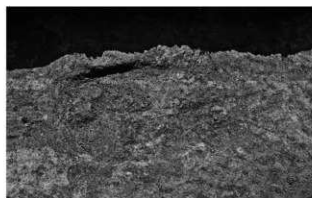
〔2〕調査風景



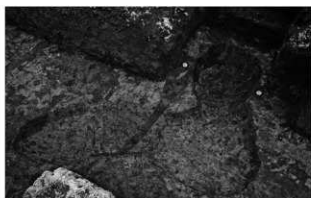
〔3〕第1号炬穴（1FP）



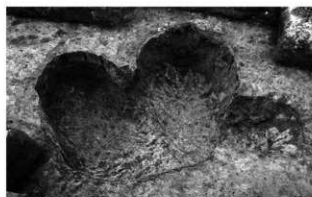
〔4〕第2号炬穴（2FP）



〔5〕第3号炬穴（3FP）



〔6〕第4～7号炬穴（4～7FP）



〔7〕第8～10号炬穴（8～10FP）



〔8〕出土遺物

写真図版2 大谷遺跡第6地点



〔1〕第2号住居跡遺構プラン（2Y）



〔2〕調査風景



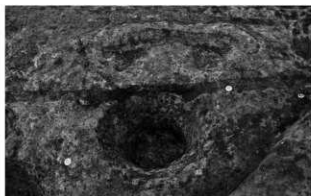
〔3〕第2号住居跡（2Y）



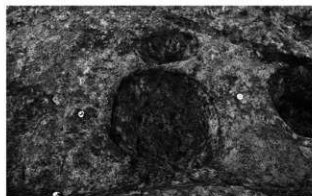
〔4〕第2号住居跡炉1（2Y）



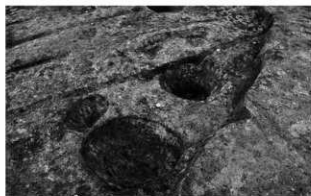
〔5〕第2号住居跡炉2（2Y）



〔6〕第2号住居跡貯蔵穴（2Y）

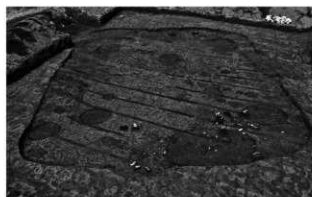


〔7〕第2号住居跡階段掘り込み（2Y）



〔8〕第2号住居跡入り口施設（2Y）

写真図版3 大谷遺跡第6地点



〔1〕遺物出土状況1



〔2〕遺物出土状況2



〔3〕遺物出土状況3



〔4〕遺物出土状況4



〔5〕遺物出土状況5



〔6〕貯蔵穴遺物出土状況



〔7〕階段掘り込み遺物出土状況1



〔8〕階段掘り込み遺物出土状況2

写真図版4 大谷遺跡第6地点



〔1〕出土遺物 (1)



〔2〕出土遺物 (2)



〔3〕出土遺物 (3)



〔4〕出土遺物 (4)



〔5〕出土遺物 (5～7)



〔6〕出土遺物 (8、9)



〔7〕出土遺物 (10、11)



〔8〕出土遺物 (12)

写真図版5 東台遺跡第44地点



〔1〕東台遺跡第44地点試掘調査前風景



〔2〕遺構確認状況



〔3〕第78号住居跡完掘状況（78 H）



〔4〕第78号住居跡カマド完掘状況（78 H）



〔5〕第79号住居跡完掘状況（79 H）



〔6〕第4号掘立柱建物跡完掘状況



〔7〕調査終了状況1



〔8〕調査終了状況2

写真図版6 東台遺跡第44地点



〔1〕第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.4)



〔2〕第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.8)



〔3〕第81号住居跡出土遺物 (81 H) (No.3)



〔4〕第76号住居跡出土遺物 (76 H) (No.2)



〔5〕第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.23)



〔6〕第78号住居跡出土遺物 (78 H) (No.24)



〔7〕第79号住居跡出土遺物 (79 H) (No.6)



報告書抄録

ふりがな	しないいせきはつくつちようさ						
書名	市内道路発掘調査				巻 次	第71集	
シリーズ名	富士見市文化財報告				巻 次	第71集	
編著者名	堀 善之・佐藤一也						
編集機関	富士見市教育委員会						
所在地	埼玉県富士見市大字鶴馬1873-1 平 354-0021 tel 049-251-2711						
発行年月日	2019年3月31日						
所収遺跡	所 在 地	コード		北緯/東経 (日本測地系による)	調査期間 (上段: 試掘, 下段: 本調査)	面積	調査原因
		市町村	道路番号				
大谷遺跡 第5地点	山宮2丁目 1211-3の一部	112356	24-022	35° 51' 35" 139° 32' 38"	2014年9月17日～18日 10月7日～10月9日	887.81㎡	保育所建設
大谷遺跡 第6地点	山宮2丁目 1209-1、1230-1の各一部	112356	24-022	35° 51' 23" 139° 32' 49"	2016年8月22日～23日 9月1日～9月9日	498.45㎡	集合住宅建設
東台遺跡 第44地点	大字水子 4405-1、4406-1、4407-1	112356	24-046	35° 50' 10" 139° 33' 55"	2005年11月18日～25日 (1回目)11月27日～ 12月22日 (2回目)2006年2月10日～ 3月16日	1021㎡	農地改良
所収遺跡	種 別	主な年代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
大谷遺跡 第5地点	集落跡	縄文時代		竪穴土坑 10基 11基	縄文土器		
大谷遺跡 第6地点	集落跡	弥生時代末～古墳時代前期初頭		住居跡 1軒	弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の土器		
東台遺跡 第44地点	集落跡	縄文時代		土坑 7基	縄文土器 異形石器	9世紀前半～10世紀前半の竪穴住居跡6軒が確認され、2軒からは2基のカマダがそれぞれ検出された。 また、縄文時代の土坑からは、チャートの異形石器が出土した。	
		平安時代		住居跡 6軒	土師器 須恵器 刀子平瓦		
		時期不明		竪立柱建物跡 1棟 溝跡 1条 土坑 4基 柱穴列 1条	—		
要 約							
【大谷遺跡第5・6地点】 第5・6地点は当遺跡の中央部に位置し、近接する既調査地点からは弥生時代後期末の住居跡・平安時代の住居跡が確認されていることから当該期の集落が広がることが考えられたが、弥生時代後期末の住居跡が検出されたことで、さらに本地点の北側に向けて分布していくことが考えられる。							
【東台遺跡第44地点】 本地点からは平安時代の竪穴住居跡6軒が検出され、住居跡内から須恵器や土師器のほか、刀子や平瓦が出土した。また、9世紀後半の竪穴住居跡を壊して9世紀後半～10世紀初頭の幅広の溝跡が検出され、底面には硬化範囲が確認された。この溝跡は当遺跡を縦断して古代の集落を東西に二分しており、着目される。 ほかに、縄文時代前期後半の土坑内からは、縄文土器と共に異形石器が出土している。							

富士見市文化財報告 第71集

市内遺跡発掘調査Ⅻ

発行 平成31年3月31日

編集発行 富士見市教育委員会

〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬1873-1

印刷 株式会社 白峰社

〒170-0013 東京都豊島区東池袋5-49-6

